

第17回 全国児童館・児童クラブみやぎ大会 「つながる~こどもがまんなか~」

主催:宮城県児童館・放課後児童クラブ連絡協議会 全国児童厚生員研究協議会 一般財団法人児童健全育成推進財団

共催: 宮城県 仙台市

主管:第17回全国児童館・児童クラブみやぎ大会実行委員会



子ども虐待防止オレンジリボン運動



児童厚生員の輪を広げよう

第17回全国児童館・児童クラブみやぎ大会開催概要

1 開催趣旨

全国の児童館・児童クラブ職員が児童健全育成事業を推進するために、自主的な研究協議と交流の場を設け、 自らの意識と資質の向上を図る。また、児童館・児童クラブの多様性やその意義、職員の専門性について、地 域社会へ認知が拡がることを希求し、その普及・啓発のために現任従事者の積極的な企画・運営への参画を得 ることを重視する。子どもの大切な居場所となり、その豊かな育ちに寄り添う地域の子育て支援の拠点としての 役割を、更に意識し高めていく。

2 みやぎ大会コンセプト

「東日本大震災から10年。そして、つながる未来へ。」

東日本大震災から10年の節目の年に被災地で開催をすることで、復興のあゆみを応援いただいた全国のみなさんへの感謝とともに、その事実を風化させず、あらためて災害についての意識を持って子どもたちの育ちや命そのものに寄り添う環境を考え、未来に繋いていく役割を果たしていきたい。

3 開催テーマ**「つながる」** サブテーマ**「こどもがまんなか」**

全国の児童館・児童クラブが「つながる」 経験が「つながる」 行政と児童館・児童クラブが「つながる」 学校・家庭・地域と「つながる」 教育と福祉が「つながる」 子ども同士が「つながる」 震災以前からのつながりを絶やさず未来へ「つながる」 ~

4 主催

宮城県児童館・放課後児童クラブ連絡協議会 全国児童厚生員研究協議会 一般財団法人児童健全育成推進財団

5 共催

宮城県 仙台市

6 後援

厚生労働省 宮城県内各市町村 全国児童館連絡協議会 社会福祉法人全国社会福祉協議会 児童厚生員養成課程連絡協議会 民間児童館ネットワーク 全国地域活動連絡協議会

7 主管

第17回全国児童館・児童クラブみやぎ大会実行委員会

8 開催日時

令和3年11月7日(日)10:00~16:30

9 開催方式

オンライン開催(ZOOMを用いたオンライン形式)

10 参加対象者

児童館・放課後児童クラブに関わるすべての方、福祉及び教育関係者、 行政関係者、 子ども・子育てに関心のある方どなたでも

11 参加人数

873名

12 日程・内容

《日程》

《内容》

時間	内容	
10:00	開会	・学びのコミュニティ
(25分)	オープニング	~東中田復興プロジェクトかにっこ和太鼓隊~
	パフォーマンス	・開会宣言・主催者挨拶・・来賓挨拶
	挨拶	・サンドウィッチマンからのメッセージ
10:25	映像メッセージ	・県内の震災当時と現在の児童館の様子映像
(65分)		「東日本大震災から 10 年 復興への道」
	シンポジウム	・コーディネーター 東北学院大学 教授 水谷 修 氏
		・パネリスト
		女川町教育委員会教育指導員(石巻湊小学校 元校長) 坂本 忠厚 氏
		気仙沼市赤岩児童館 前館長 金田 みや子 氏
		亘理町荒浜児童館 元館長 鈴木 由美子 氏
11:30	基調講演①	「復興支援から見えてきたもの」
(40分)		~社会総ぐるみで子どもの育成を!~
		講師 宮城教育大学 学長特別補佐 特任教授 野澤 令照 氏
12:10	休憩	乳幼児子育て支援室 10 館の活動紹介など配信
12:50	基調講演②	「脳科学から見た子どもに必要なこと」
(40分)		講師 東北大学加齢医学研究所 教授 瀧 靖之 氏
13:30	休憩	
13:50	分科会 ※分科会の	D時間と内容の詳細については, 別紙を御覧ください。
15:50	休憩	
16:00	エンディング	
16:30	閉会	

◇ オープニングパフォーマンス

「東中田復興プロジェクトかにつこ和太鼓隊」



東日本大震災を体験して、学校と地域との連携、地域コミュニティのつながり、災害時の子どもたちの心のケア、助け合える家族の存在の大切さを知らされました。学校にある和太鼓を活用して、三つの小学校(四郎丸小、東四郎丸小、袋原小)と袋原中学校がつながって、地域を元気にしていこうという思いから、2012 年 12 月「学びのコミュニティ 東中田復興プロジェクトかにっこ和太鼓隊」を結成しました。子どもたちを真ん中に、PTA・先生・地域の方たちが一緒になって和太鼓演奏をしています。

内輪や旗を持って応援してくださっているのは、各小学校の現・元校長先生や教頭先生、 地域の方たちです。そして 演奏にも駆けつけてくれた先生たちの心強い太鼓の音に励まさ れて、子どもたちは元気に力強く演奏できました。演奏の映像が流れると、参加者の皆さん から「子どもたちカッコいい!」「弾ける響き。助け合いのまちの鼓動が伝わりました。」 「感動をありがとう!」と たくさんの声が寄せられました。

◇ 開会式

司会: 若牛 哲雄(色麻町学童保育施設 施設長)



☆開会宣言・主催者挨拶

第 17 回全国児童館・児童クラブみやぎ大会 実行委員長 宮城県児童館・放課後児童クラブ連絡協議会 会長 齋藤 勇介



第17回全国児童館・児童クラブみやぎ大会が、東日本大震災から 10年の節目の年に大会初の試みであるオンラインでの開催となり、 全国の子どもたちに寄り添うたくさんの方々のご参加の中で開催出来 ますことを心より感謝を申し上げます。本来ならば宮城の地に直接足

を運んで頂き、復興までの歩みを感じながら互いに学びを深めて頂きたかったのですが、新型コロナウィルス感染拡大防止の観点からオンライン開催に大きく舵を切らせて頂きました。 しかし、この状況下でも新たな視点や発想を思案しながら大会が実施出来たことは大変意義 のあるものだと実感しております。

未曾有の大災害「東日本大震災」から10年。その間も、全国各地で様々な困難が起こっていました。この事実を風化させず、災害の意識を持ち、子どもたちの育ちや命に寄り添う環境を考え、未来につないでいく役割を果たしていけるよう大会準備を重ねて参りました。大会のテーマは「つながる~こどもがまんなか~」です。コロナ禍において新しい生活様式が求められる中、子どもたちを取り巻く環境も大きく変化しています。10年前、明日さえも見えない状況の中、全国の方々の支えの中、つながりを大切に一歩ずつ前を向いて、子どもたちに寄り添い、子どもたちとともに歩んできた宮城の想いや経験は、全国の取り組みに必ず活かされていくことと確信しております。

本大会の開催にあたり、ご尽力賜りました関係者の皆様並びに、開催趣旨にご賛同頂き、協賛をして下さった企業やその他多くの方々のご理解・ご協力によって開催出来ますことに厚く御礼申し上げます。大会を通じて得た全国の仲間との繋がり、学びや想いを各現場で、取り組みに活かして頂くことで、たくさんの子どもたちや地域の笑顔が育まれていきますことを祈念し、ごあいさつとさせて頂きます。

一般財団法人 児童健全育成推進財団 理事長 鈴木 一光



この度は第 17 回全国児童館・児童クラブみやぎ大会にご参加いただきありがとうございます。この全国大会は、今から 26 年前、平成7年2月に東京にて初めて開催されました。児童健全育成の従事者の強い思いと誇りにかけて、自らその専門性を追求する会が出発点でし

た。当時は先立つ予算もなく、児童厚生員たちの熱い心意気によって作られていった*こと*が 思い出されます。

今回の大会はこれまで過去 16 回の研究協議の理念を継承するとともに、「つながる〜こどもがまんなか」をテーマに、児童館・放課後児童クラブの発展のために全国の同志が繋がり未来に繋いでいく役割を、東日本大震災から 10 年経った今、宮城県から発信するものです。

昨年度の全国大会は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、苦渋の決断で中止となりましたが、その思いはこのみやぎ大会に引き継がれ、開催の運びとなりました。全国大会初のオンライン開催となりますが、関係者が対面して語り合うことができなくとも、コロナ禍における子どもの居場所に必要となる視点や発想について思考していただく機会として非常に意義深いものだと考えています。

本大会の開催にあたり、多大な入念な準備を積み上げてこられました宮城県児童館・放課後児童クラブ連絡協議会、そして全国児童厚生員研究協議会に心からの感謝を申し上げます。そして、共催していただきました宮城県、ならびに仙台市ご当局には、適宜適切な助言や情報提供いただきました。更には厚生労働省をはじめ、開催趣旨にご賛同いただき協賛してくださった企業、個人、その他多くの方々のご理解とご協力によって開催できますことに厚くお礼申しあげます。

このみやぎ大会がご参加いただいた皆様にとって有意義な時間となりますことを心より祈 念いたします。

全国児童厚生員研究協議会 会長 木戸 玲子



平成7年(1995 年)からスタートした全国児童館・児童クラブ大会は、今回で第17回を迎えました。東日本大震災から10年。そしてこれまで世界中のだれもが経験したことのない状況下で、史上初、オンラインで「みやぎ大会」が開催されることをうれしく思います。大人でさ

えも行き先を見失いそうになる不安の中、諦めることなくご尽力いただいた「みやぎ」の熱いエネルギーに迎えられ、全国の仲間が集えることに感謝しています。感染拡大防止の観点から人との接触が憚られる中、私たちは子どもたちの変化する日常を、守り、支えてきました。そして、これまでの常識をあらゆる角度から見直し、工夫と挑戦を重ねながら、児童館・児童クラブの役割、私たち自身のあり方を考える日々を送りました。どんな状況でも、児童館・児童クラブが機能し、子どもを守れることが大切です。危機的状況でも「遊び」は子どもの笑顔をつくります。さまざまな経験を通して感じたこと、考えたことがこの大会で実を結び、これからの児童館・児童クラブをつくっていくと確信しています。

全国の仲間の熱い思いが、みやぎ大会に集結します。つながってください。そして全国の仲間と手をつないでください。分かち合い、学び合いの機会を形にしてくださった大会関係者の皆様に感謝しつつ、多くの笑顔が生まれることを祈念し、ごあいさつとさせていただきます。

☆来賓挨拶

厚生労働大臣 後藤 茂之 様

(代読: 厚生労働省子ども家庭局子育て支援課課長 鈴木 健吾 様)

第 17 回全国児童館・児童クラブみやぎ大会の開催に当たり、一言御祝いを申し上げます。本大会が、17 回目を迎えられたことに心からお慶び申し上げるとともに、日頃から、児童の健全育成や子育て支援に携わる関係者の皆様に、心から敬意を表します。特に、新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮しながら、活動を継続いただいていることに対しまして、この場をお借りして御礼申し上げます。

さて、厚生労働省では、児童福祉の推進に日々取り組んでおります。

児童館については、「児童館ガイドライン」に基づき、児童虐待などの昨今の子どもをめぐる福祉的な課題への対応や、子どもの居場所づくりなど、児童館に期待される活動について、 調査研究等を通じて普及啓発を図っております。

また、放課後児童クラブについては、厚生労働省と文部科学省とが連名で策定した「新・ 放課後子ども総合プラン」に基づき、放課後児童クラブの量的整備を進めると共に、その質 の向上を目指した取組を行っています。

今後とも、こうした施策をしっかりと進めることにより、児童館や放課後児童クラブがより発展することを期待しております。

本大会は例年と異なり、オンライン形式での開催となりました。東日本大震災から 10 年が経過した宮城県に参集し、復興の様子を拝見することが叶わないことは残念ではありますが、子どもたちの健やかな育ちや命について、改めて考える機会となりますよう祈念申し上げます。

結びに、本大会の開催に御尽力いただきました関係者の皆様に厚く御礼申し上げますとと もに、本大会に参加された、皆様の益々の御活躍を御祈りし、本大会が実り多きものとなる よう御期待申し上げ、御祝いの御挨拶といたします。

宮城県知事 村井 嘉浩 様

第 17 回全国児童館・児童クラブみやぎ大会の開催にあたり、一言ご あいさつを申し上げます。

本日お集まりの皆様におかれましては、地域における子どもたちの健全・育成活動に対し、日頃より御尽力を賜り厚くお礼申し上げます。特に昨年から続く新型コロナウイルス感染症への対策として、子どもたちの健康管理や感染予防の徹底などに日々取り組まれ、子どもたちが安全に安心して過ごせる居場所を確保していただいておりますことに改めて感謝を申し上げます。

今年3月で東日本大震災から10年が経過いたしました。本県も甚大な被害を受け、多くの子どもたちが厳しい状況に置かれました。復興への道のりや復興支援から見えてきたものなど、子どもたちに寄り添い歩んできたこの10年間の想いも含め、全国の皆様と共有し、「つながる」ことによって、本大会が今後の皆様の活動に大きく寄与することを期待しております。

子どもたちを取り巻く環境が変化する中、児童館や放課後児童クラブが担う役割は、これまで以上に重要になっております。今後とも、地域における児童の健全育成活動の先導役として、御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本大会の開催に御尽力いただきました皆様方に対し、心からお礼を申し上げますとともに、本大会が実りある素晴らしいものとなりますようお祈り申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。

本日は誠におめでとうございます。

仙台市長 郡 和子 様



本日の「第 17 回全国児童館・児童クラブみやぎ大 会」の開催にあたり、一言ご挨拶申し上げます。本大会が、東日本大震災から 10 年の節目を迎えた仙台で、「つながり」をテーマに、全国 4,600 を超える児童館・児童クラブの職員の皆様の研究と交流の場として開催されますこと、

心よりお慶び申し上げます。職員の皆様には、児童館・児童クラブの運営にご尽力いただいていることに、この場をお借りして心から感謝申し上げます。コロナ禍の下、学校休校時の対応をはじめ、毎日の消毒作業などの感染予防対策に、多くのご苦労もあったかと存じますが、改めて、地域における子どもたちの大切な居場所として、児童館・児童クラブの果たす役割の大きさを、強く実感しているところです。

さて、近年、核家族化の進展や共働き世帯の増加、地域のつながりの希薄化など、子どもと家庭を取り巻く状況は大きく様変わりしつつあります。仙台市におきましても、児童クラブ事業の安定的な運営のため、受け皿の整備や人材確保に鋭意取り組んでおりますが、近年の要支援児の増加などに対応するため、児童の特性を理解した支援や家族の相談支援等、職員の皆様のスキルの維持向上がますます重要になっております。今大会の主催団体の皆様には、長年にわたり充実した内容の研修会を全国各地で開催し、指導員全体のレベルの向上に多大なる貢献をいただいております。児童福祉行政を担当する立場から、本当に心強く感じております。

本大会の交流をきっかけに、互いに高めあうつながりをつくり、その輪の真ん中で、子どもたちが生き生きと過ごせる児童クラブ事業の運営に向け、本日ご参加の皆様のさらなるご活躍を祈念いたしまして、私からの挨拶とさせていただきます。

本日は、誠におめでとうございます。

◇ サンドウィッチマンからのメッセージ



第17回全国児童館・児童クラブみやぎ大会開催、おめでとうございます。

今年は震災から 10 年が過ぎましたが、我々も震災直後から被災各地を訪問しました。避難所に行けば、はしゃいでいる子どもたちや、下を向いている子どもたち、いろんな子どもたちと会いました。

震災直後ですが、避難所に行くと「わーっ」ってはしゃぎまわっている子どもたちがとても多かったです。「ずいぶん、元気だねー」って聞くと、子どもたちが「元気じゃないとお父さんお母さん泣くんだよ」と言うんです。子どもたちは、親の悲しんでいる顔を見たくないから自分が笑顔になるんだって。感覚とかそういうもので感じているのかも知れないと思いました。そういう意味で子どもは本当にまんなかにいると思います。

共働きのご家庭とかの子どもたちなどが児童館や児童クラブに通ったりして遊んだり学んだり。児童館や児童クラブの役割は非常に大きいのかと思います。そこで横の友達のつながりができたり、先輩後輩の縦のつながりも養われていったり、本当に大事な役割を担っていると思います。

台風や大雨、地震などの災害は、いつどこで起こるか分かりません。児童館に遊びに行っているときになにか起きるかもわからないということです。そういうときに、避難場所や家族への伝え方などを確認するのも大事だと思います。ぜひ充実した大会になればと思います。

◇ 映像メッセージ

東日本大震災によって大きな被害を受けたみやぎ各地の児童館の当時の状況から、一歩一歩着実に復興してきた児童館と子どもたちの様子を映像にしました。





◇ シンポジウム「東日本大震災から 10 年 復興への道」

コーディネーター

パネリスト



東北学院大学 教養学部 学部長 水谷 修 氏



女川町教育員会教育指導員 (石巻湊小学校前校長) 坂本 忠厚 氏



気仙沼市赤岩児童館 前館長 金田 みや子 氏



亘理町荒浜児童館 元館長 鈴木 由美子 氏

■趣旨について コーディネーター・水谷修氏

東日本大震災から 10 年の節目の年に、あのとき何が起きたのか、どのような行動をとったのか、復旧復興の過程でどのような経験をしたのか、何を学んだのか、それをどのように活かすことができるか、児童館はどのような役割を果たすことができるのか、そんな児童館・児童クラブの活動へのヒントを提供できるのではないかと考え、「東日本大震災から 10 年 復興への道」と題して、このシンポジウムを開催しました。

■震災当時・復旧期の状況について(自己紹介を兼ねて) パネリスト①金田みや子氏

震災発生時、利用者はおらず、職員で庭の真ん中に避難しました。児童館が左右に揺れていて、崩れるかと思いました。高台にあった児童館に300人近い人が避難してきたため、避難所として地域の人たちを受け入れ、自治会の方が持ってきたテントで3日間過ごし、避難所に移動しました。普段は見えない海面が見え、轟音とともに津波がきました。重油タンクが浮いていて、湾内は一晩中火の海で、空が真っ赤だったことが、心に残っています。

3 月末から市内 5 児童館の職員は、おもちゃなどの支援物資を持って、避難所を回り、移動児童館として出張の遊び場づくりに取り組みました。こんなときにと思う人もいるかもしれませんが、音楽を流したりしながら、子どもたちと遊びました。市内 5 児童館の内、津波の被害を免れた 4 児童館は 4 月 2 1 日には通常業務を開始しました。利用者の中には、転勤族の家族もたくさんいて、避難場所が分からず、ここしか知らないと逃げてきた人もいました。児童館のことを覚えていてもらえて、よかったなと思う出来事でした。

パネリスト②坂本忠厚氏

震災当時は、石巻市教育委員会として中央公民館に勤務していました。中央公民館は、少し高台のところにあり、地域の方や近くで働いている人など、200人近い方が避難してきました。一体どれだけこの生活が続くのか、皆目検討がつかない中でのスタートでした。震災直後は、食糧や暖を取るものなど生活の基盤となるものの確保が必要でしたが、だんだんと日が経つにつれて、避難所の方々が求めるニーズも少しずつ変わってきました。

そのとき思ったことが、このような状況では、生きるために楽しいこと、あるいは自分ができることを 感じてもらうことが大切ではないかということです。当時は、フロアに毛布や段ボールを敷いて、寝るだ けのような環境でしたが、そんな環境でも楽しいことができないかと積極的に外部からの支援を受け入れ るようにしました。太鼓の演奏を聞いたり、支援の方々の郷土のお話を聞いたりなどたくさんの場を設けました。そんな中で、少しずつ避難所の中の人たちのコミュニティができて、揉めごとも少しずつ少なくなりました。さらに、ジュニアリーダーの中高生が避難所を回り、お年寄りの肩を揉んだり、お話をしたり、子どもたちと遊んだりと避難所の癒しになっていたと感じます。また避難所スクールと題して、みんなで知恵を出し合い、避難所内でコーヒーが飲める喫茶スペースづくりなどに取り組みました。本当に皆さんが喜んでいるのかという不安もありました。歌たったり、ダンスしたりしていると、「そんなものに興味ない」といった声もありましたが、その都度、「明日を夢見ながら、少しでも居心地のいい空間をつくろう。」と声をかけました。まず実際にできること、自分たちの目の前に来たことをやってみようという攻めの姿勢が避難所の皆さんの心を溶かしていったのだと思います。

また避難所の中で元気に遊ぶ子どもの声や、学校に行くために、道路を通る子どもたちに避難所の方々が声をかけるする様子も見られました。石巻市子どもセンターらいつのような、学校が終わってから子どもたちの集える場所、施設の中からまちの中に響く子どもたちの元気な声が復興に向けた後押しになっていると思います。

パネリスト③鈴木由美子氏

震災により亘理町全体で306名の方が亡くなり、荒浜地区では約半数の151名の命が奪われ、海から200mの荒浜児童館も全壊しました。子どもたちは小学校の判断で下校せずにいて、避難にきた地域の方々と避難し、全員助かりました。自分の両親も自宅から避難する準備をしている間に津波に襲われましたが、2Fに避難し、自衛隊に救助されました。そこで思ったのが、「このくらいなら大丈夫という気持ちは、ダメなのではないか。まずは安全なところに逃げる。まずは命を守る」みなさんにもこのことだけはぜひ覚えておいてほしいと思います。

荒浜地区の子どもたちは、近隣の学校の避難所で生活することになり、敷くものもなく、雑魚寝の環境で過ごしていました。子どもたちがトイレに使う水汲みをしたり、自衛隊のお風呂を使うために段ボールを使って、お風呂券をつくってくれたり、そんな姿がいまでも印象に残っています。

避難所のスペースの一角を活用し、段ボールで基地をつくり、子どもたちから名前を募り、キッズルームとして遊べるスペースをつくりました。小学生が保育所の子どもたちを、中学生が小学生をみる、そんな姿がありました。また亘理小学校でも、学校の空き教室を活用して、子どもたちの居場所をつくりました。逢隈小学校では、学校の先生に相談し、空き教室で1ヶ月後に放課後児童クラブが始まりました。ただ子どもたちは、どうしても同じ空間で過ごすしかなく、難しい状況でした。だんだん落ち着いてきて、校庭で遊べるなど環境が変化し、元気になり、支援で頂いた食べ物やおもちゃを子どもたちが楽しみながら、生活できるようになりました。

丸2年が経ち、仮設児童館が建設され、夕方まで児童館に明かりがついて、子どもたちの声が聞こえると、それだけでも希望をくれる存在だと地域の方から声が寄せられました。また子どもたちの安全を守るため、新しくできた保育所、児童館、小学校は避難や連携がしやすいように1つの地域の中に建設されました。

■「つなげる」というキーワードから思うこと

金田氏: 気仙沼市内の児童館はすべて自由来館です。自由来館であれば、おもしろくなければ行かなくてもいい場所になりますが、1 年生のときに、きっかけをつくると、その後も遊びにきてもらえることがわかりました。また震災当時支援してくださった方には、10 年経っても続いている方がいます。10 年経ったいまでも忘れないでいてくれて、震災を自分たちのことだと考えてくださることは本当にありがたいと思っています。

坂本氏:震災を通して、いままでは、自分の家の中、あるいは近所の中で完結していたことが石巻地域、 宮城県、さらに全国の人からの支えでいまの自分の生活があると感じることができたと思います。震災から 10 年が経ち、震災を知らない子どもたちも生まれてきている中で、他の地域の災害を見て、小さな募金活動や物資の支援を考える活動が児童会あるいは児童館で生まれている、そういったことを今後につなげていきたいと考えています。

鈴木氏:災害時だけでなく、常日頃の生活の中でも、つながりは大切です。児童館を通して、学校や地域の人とつながること。また職員の気持ちが安定することは、子どもたちが安心に過ごす上でも大切です。まずは自分の命を守る。それを子ども、職員、地域の人みんなで大切にして取り組んでいきたいと思います。

■サブテーマ「こどもがまんなか」から思うこと

鈴木氏:常日頃から子どもの思いや動作、何を考えているか感じ取れる力が大切だと思います。子どもの 声を聴いていきたい。それが子どもを真ん中にすることだと思います。

坂本氏:子どもは、存在自体が周りを明るくしてくれます。一生懸命生きて、前を向いているだけでみんなの存在価値があるのだと、私たちが伝えていくこと、それが「こどもがまんなか」となると思います。 また震災を経験した子どもたちがそれを乗り越えて、新しい日本を築いていくそんな存在になってほしいと思います。

金田氏:児童館は地域の人たちに支えられていると思います。「地域で育てる」ということを、言うことは簡単ですが、実践に結びつけていくことは難しいことです。地域を回るウォークラリーなどを通して、地域の人たちと関わる機会づくりに取り組んでいます。また子どもたちは、「先生遊ぼう!」と話しかけてきて、職員もその声に応えて、一緒に遊んでいます。それが子どもたちを中心に色々なことを考える上で、実は、大切なことなのではないかと思っています。

■まとめ:水谷修氏

みやぎ大会のテーマは、「つながる」、サブテーマは「こどもがまんなか」です。色々なつながりをつくることを通して、子どもたちの安心安全と成長を保障することが大切です。

震災やその後の復旧復興を通して、普段からのつながり、地域の人同士、施設同士、行政と施設間のつながりの大切さを確認できたと思います。

最後に、「こどもがまんなか」をどのように考えるか?私なりの考えをお伝えしたいと思います。「こどもをまんなか」において、震災時も復旧復興の過程においても、そして、これからも子どもと相対するときに子どもをどのような存在として捉えるかが大切だと思います。未成熟な子どもにとって、大人や地域、児童館が守り、育むことは大切です。でも、私たちが忘れてはならないことは子どもたちが震災のとき、避難所となった学校や地域で困難な状況の中、一生懸命自分ができることはないか考え、行動したということです。それは平時でも同じです。子どもは、地域の一員であり、児童館児童クラブの一員です。一定の役割や責任を担い、自分の意見を表明できる存在と捉えて、「まんなか」にすえることが大切です。

守られる育まれる存在としてだけではなくて、まず子どもの意思や考えを尊重し、子どもが自分自身に関わる事柄について意見を出し、計画づくりに参画できること、そしてそれを大人がサポートすることを大切にする、そういった意味で「こどもがまんなか」を捉えたいと思います。

◇ 基調講演①

「復興支援から見えてきたもの」 ~社会総ぐるみで子どもの育成を!~

講 師 宮城教育大学 学長付き 特任教授 野澤 令照 氏

- ・宮城県の小学校教員として勤務。仙台市の教育行政にも長く関わり 社会教育主事、主任指導主事、教育局次長を歴任。小学校校長で退職後、 宮城教育大学教育復興支援センター副センター長として着任。
- ・東日本大震災後の教育の復興に携わった。
- ・教員の頃から一貫して学校教育と社会教育の融合に努め、仙台市における地域協働の教育を推進してきた。現在、文部科学省の CS マイスターをはじめ、様々な外部委員を務めている。



昨年から全国でコロナ感染の拡大によって苦労を強いられてきたが、with コロナという新たな生活様式を我々に見せてくれたということもありました。決して悪いことばかりではなかったのではと思っています。実は同じようなことが 10 年前、東日本大震災の中でも光明が見えた、新たに気づかされた部分がありました。

【大きな地震が来て、、、】

仙台の海沿いの荒浜小学校、卒業を間近に控えた時期の津波被害の前後の映像、仙台市内で避難所となった学校で PTA やボランティアが行った自主的な活動、卒業式。そして、小学校に隣接した榴岡児童館が乳幼児親子や体の弱い方などを支援するために急遽避難所として開放をしたこと。これらの働きはその後、支援を必要としている人たちをどう支えたらいいのか、一般の方たちと同じ避難所でいいのかという大きな課題を考えるきっかけとなりました。

【大震災を経験したからこそ見えてきたこと】

それは、日ごろから顔の見える関係、つながり、コミュニティがしっかりしているところほど、実は多くの命が救われ、お互いの助け合いが順調に進んだということです。文部科学省の調査で学校支援地域本部を設置していた学校と設置していない学校とで、震災時避難していた時の様子を比べてみたグラフからは、未設置校(順調 35%、混乱 40%)、設置校(順調 95%混乱 0%)となり、いかに日頃からのつながりが大切であるかがわかると思います。仙台市は学校支援地域本部事業により学校教育を支える活動を充実させている中で、先生方のサポートをしたり、自治組織のリーダーとなったり、行政と住民との橋渡しをしてくださっている方々が日頃から活躍していたということがあり、「今後このような取り組みは必要か」という問いにはほとんどの方が必要であると答えています。また、児童・生徒の震災後の意識調査では、家族の大切さ、先生を尊敬する、学校に通えて幸せ、日本が好きになった等が見られ、普段当たり前だと思っていたことが災害を経験したことで子どもの心に変化が生まれました。

【震災から復興へ】

「故郷復興プロジェクト」は当時生徒たちがメンバーとなって作られたものです。ある中学校の生徒会 長がビデオメッセージを作り、仙台市内すべての小中学校へ届けました。「今、私たち小中学生が何を求 められているか、何をして何を考え、何を与えることができるのか。 - 震災を経験した皆さんならわかるはずです。」と。生徒たちの代表が集まって話合いをし、それぞれの学校に戻ってすべての子どもたちと共に活動を進める姿がその後も仙台市内で続いていくことになります。陰には子どもたちの活動を支える大人たちの姿もあり、毎年テーマを変えながら取り組んできました。子どもの力の大きさを大人が身をもって感じた取り組みであったと思います。

【見直された子どもたちの姿】

大震災の時に、子どもたちがどんな力を発揮したのか。

仙台市教育委員会ではアンケート調査を行いました。たくさんの子どもたちの姿が見えてきました。物資の配布、幼児が動き回ると大人たちに怒られてしまうため子守をする、

高齢者の独り住まいへ水を汲んで届ける、高校生は泥かきなどを進んで行ったりしました。

「子どもたちが自ら動き出した!」、そこに大きな価値があると思います。驚いたのは大人たち。「中学生、高校生がいてくれてよかった。いなくては困る。」、その想いが広がっていき、子どもたちは認められていることへの誇り、社会の一員として誰かの役に立つことができるんだという自信を持つことにつながり、大きく子どもたちを変えていくことになりました。様々なことに対して前向きに積極的に取り組み、学校の中だけの取り組みではなく地域社会の中でボランティア活動などをしたいという子どもたちの姿が増えてきました。

【新しいまちづくり】

人がまちをつくり、まちが人を育む「学びのまち・仙台」をスローガンとして、「社会総がかりでの子どもの教育」「いつでも、誰でもが学べる環境」「学びの成果を社会に還元するしくみ」を掲げ、時代の変化を受け止めて未来を作り出す取り組みを進めています。家庭教育、学校教育、地域(社会教育)が三位一体で取り組むことが大変重要ですが、中心にあるのは未来を支える子どもたち。多様なステークホルダーが強みを合わせて、ネットワークを作り、社会全体で子どもを育てていこうということ、そのきっかけとなったのも、子どもたちの震災で見えた力であることは間違いありません。

【地域に根差した児童館の働き】

児童館は 0 歳~18 歳まで継続して子どもの育ちに寄り添っていける居場所ということだけではなく、共に育っていけることが児童館の大きな役割であると感じています。その時に大事になっていくのは小・中学校との連携、情報の共有です。簡単にはいきませんが、学校に働きかけ、児童館の皆さんが感じている子どもの特性を伝え「パートナー」として取り組んでいくことが大切と仙台では取り組んできました。また、児童館は様々な人々の交流を生み出す場であり、地域の方々とのつながりを大事にしています。子どもを中心に大人がつながっていくような場が児童館に広がってきています。地域のコミュニティの拠点と言える重要な場所であると思っています。

さらに持続可能な取り組みとして、児童館で育った子どもたちが成長して、児童館に戻ってきて子どもたちと遊んでいる。子どもたちにとってしっかり心に根付いている。そういった循環(里帰り)の姿が児童館の強みだと考えます。地域の人々が子どもを育ててくれる、子どもたちも育てられたことを決して忘れません。社会のために何かしたい、恩返しの心を育ててくれるところ、それが児童館ではないかと感じています。

【市民協働による取り組み】

仙台では「子どもの放課後支援を進める会」という団体を作っています。構成メンバーは児童館、放課

後デイサービス、民間児童クラブ、放課後子ども教室の方々に関わっていただき、放課後の居場所を支えるネットワークを作って取り組んでおり、「つながりマップ便利帳」という冊子を作りました。行政の力も欠かせません。子どもを取り巻く組織・団体が共に力を合わせて守ろうとつながりを作っていることが仙台の強みで、市民協働を全国に誇れる実績であると捉えています。組織ができたからと言って一朝一夕で完璧なものができるというわけではありません。非常に尊いのは、一歩でも前に進もう、少しでもつながりを広げよう、様々な課題を知恵を出し合あって乗り越えよう、そういった取り組みを続けているそれぞれの職員の方々の取り組みが必ずや実を結ぶと思っています。

私はもともと学校の教員であります。学校は目の前の仕事の中で、児童館など他機関と情報共有する時間が取れない現実があります。でも、一歩視点を変えて「誰のために仕事をしているだろう」と考えると、やはり「子ども」ですよね。目の前の子どもにとって一番よい環境、姿を求めていくと、おのずと自分たちがやらなくてはいけないことが見えてきます。縄張り意識などは取り払って、関りを持つことで今までできなかったことが必ずやできてくると確信しています。

物事が開かない、つながりがでない時に一番肝要なことは諦めないこと、しぶとく粘り強く関り続けること、短絡的な成果を求めずに継続をしていくことです。

未来を担うすべての子どもたちを健やかに元気に育てていきたい、未来につながるまちづくりと人づくりに力を尽くしていく、すべての人にとって幸せな世界を作り上げる。このことは皆さんの日々の営みから生まれてくると考えます。これからも子どもたちを見守り、育み、寄り添って、素敵な大人に育て上げていただきたいと思っております。

◇ 基調講演②

「脳科学から見た子どもに必要なこと」

講 師 東北大学加齢医学研究所 教授 瀧 靖之 氏

東北大学スマート・エイジング学際重点研究センター 副センター長 東北大学発スタートアップ 株式会社 CogSmart 代表取締役 医師 医学博士

東北大学加齢医学研究所及び東北メディカル・メガバンク機構で脳の MRI 画像を用いたデータベースを作成し、脳の発達や加齢のメカニズム

を明らかにする研究者として活躍。読影や解析をした脳 MRI は、これまでにのべ約 16 万人に上る。

「脳の発達と加齢に関する脳画像研究」「睡眠と海馬の関係に関する研究」「肥満と脳萎縮の関係に関する研究」など多くの論文を発表している。

著書は、「生涯健康脳(ソレイユ出版)」「賢い子に育てる究極のコツ(文響社)」「回想脳(青春出版社)」 「脳医学の先生、頭が良くなる科学的な方法を教えて下さい」(日経 BP)」始め多数、特に「生涯健康脳」 「賢い子に育てる究極のコツ」は共に10万部を突破するベストセラーとなり、海外でも複数カ国語で翻訳 本が出版されている。テレビ東京「主治医が見つかる診療所」、NHK「NHK スペシャル」、NHK「あさイチ」、TBS「駆け込みドクター!」など、メディア出演も多数。

私は元々脳科学で認知症の予防、脳の健康の維持を研究していましたが、日本が、地域、家族が幸せになるには子どもたちがいかに夢を叶えるか、自己実現することか、ということを 10 年前くらいに考え、子どもたちの脳の発達にシフトしてきました。

脳科学的には、子どもたちの脳がどうやって発達するのか、いつどんなタイミングでどのように大人が関わることで子どもたちの脳の発達を促進させてあげることができるのか。子どもたちの生活習慣にはどのようなことが必要なのか。世の中にいろんなエビデンスがでてきています。私たちがちょっとだけでも知って、ちょっとだけ実践することが子どもたちにも私たちにも良いことだと思いますので、わかりやすく最新の脳科学についてお話させていただきます。

12,3年前から子どもたちの脳の画像のデータベースを作っています。子どもたちの脳がどのように発達していくのか、ということについては世界的に殆どデータがありませんでした。定型発達の子どもたちはなかなか医療機関に来ませんので、研究ができなかったことがありましたが、行政や教育委員会など様々なところに伺い、力添えをしていただき研究を行いました。子どもたちにとって MRI は暗くて怖くて保護者の方と離れられないので、まずは遊んで愛着形成をして仲良くなったところで「宇宙船にはいろう!」と言って入って貰うと、子どもたちは頑張ってくれて脳の画像を取らせていただきました。

私たちの脳についての話をしたり、子どもたちの脳の画像をプリントアウトしてプレゼントし、さらに、「あなたが大学にきてくれて頑張ってくれたおかげで、非常に貴重な画像が撮影できた」ことを伝え感謝 状贈呈式を行いました。

子どもたちから、将来は脳科学者になりたい、研究者になりたい、自由研究で脳について調べたなどの 嬉しいお手紙をいただきました。世界的にも非常に貴重なデータを取ることができました。

【脳の発達と獲得しやすい能力】

子どもたちの脳は生まれてからすべての領域が一気に育つわけではなく、感覚、見たり聞いたりする領域は非常に速い段階で発達のピークが来ます。一方で考えたり判断したり、コミュニケーションをとる、

新しいものを作り出す高次認知機能の領域は、思春期でようやく発達のピークが来ることがわかっています。

子どもたちが生まれてから、いつどうやって、私たちがどうしてあげると脳の発達が進んでいくのかについてお話したいと思います。まず、生まれてすぐは感覚に関わる領域の発達が進んできますので、赤ちゃんに笑顔で目を見てぎゅっと抱きしめて語り掛けてあげる「愛着形成」が非常に重要です。

子どもたちは愛着形成をしっかり与えることで、温かみを感じることができます。子どもたちのすべての 土台は愛着形成です。私たち大人からの愛情をいかに注ぐか、脳科学から見ても心理学的にみても非常に 重要になります。

子どもたちはもう少し大きくなっていくと、生後半年から2歳くらいに母国語の獲得がどんどん発達していきます。その頃の読み聞かせがすごく大事です。子どもたちは何が主語で述語などはわかりませんが、言葉をやさしく色々と与えてあげることでイントネーション、表情と言葉との一致から感情と言葉が結びつくなど非常に多くのことを得られます。医者の周りで聞くと子どものころ読み聞かせをしてもらったという人が非常に多いです。共働きだったり日々忙しくて毎日やることは難しくてどうしても DVD やネットに頼ることもあると思いますが、時間がゆるす時には生身の人間が読み聞かせを行うことがよりいいという報告があります。

【知的好奇心】

2, 3 歳になると、自分と外の世界、自分と他者の区別がどんどんついてきて、外の世界に興味をもってきます。子どもたちが「なぜ、なぜ」と聞いてきて大人たちが頭をひねらせながら考える、この頃は知的好奇心がどんどん芽生えてくる時期です。人はいろいろな能力があってどれも素晴らしいですが、この知的好奇心、もっと知りたいという力はすごく大事で素晴らしいと思っています。いかに伸ばすかが非常に大事になっていきます。どう伸ばすかというと、私たち人間は物、人、何かを対象にたくさん見たり聞いたりすると単純接触効果といってだんだんその対象が好きになる。子どもたちに豊かな経験をさせてあげることが大事になります。例えば、世の中のことに興味をもつ最初のきっかけとして絵本や図鑑で昆虫や乗り物など興味を持ったら、現実のものを見せに行ってあげる。昆虫だったら野山、魚だったら釣りや水族館など本で見た世界が世の中に広がって存在していることを知り、仮想の世界と現実の世界を何度も行き来することで世の中の奥深さを知ることができます。

また、私たち人間は、何かの能力を獲得するときには基本的には模倣(まね)で覚えていきます。ミラーニューロンといいます。箸を持つのもマナーを守るのも模倣で覚えていきます。子どもたちに好奇心を持たせるにはどうしたらいいかというと、究極的には私たち大人こそが興味をもって楽しんで、子どもたちに見せてあげる、一緒に行うことを繰り返すことで子どもたちの好奇心を伸ばすことが非常に大事になります。

好奇心と学業成績はつながること、本を読む、読書をする、これは本当に素晴らしいことです。子どもにとっても大人にとっても、高齢になっても、それぞれ脳の健康を維持する、将来の認知症のリスクを下げることになります。子どものうちに読書習慣が身についたら素晴らしいです。本が嫌いな子もいると思いますが、それこそ模倣の力で5分でもいいから本を読む時間を作る。学校や児童館の場でもいいと思います。子どもたちにしてあげたいことは、大人が率先して本を読む時間を作るようにすることです。

アウトドア、自然体験も非常に素晴らしいです。体が鍛えられることだけでなく非認知能力、やり抜く力、 好奇心などが伸びます。結果的には学業成績につながります。天気がいい時だけでもちょっと野山にいく、 散策するだけでも立派なアウトドアです。

子どもたちはたとえ同じ場所であっても季節や天気のちょっとした違いで、出会う昆虫なども異なる無限の広がりとなるのでアウトドア体験は非常に大切です。

子どもたちは3歳~5歳ころから脳の中の運動野と言われるところも発達していきます。

運動は脳にどのような影響を与えるかというと、運動することで脳の中の「海馬」と呼ばれる記憶に関わる領域の神経細胞「神経新生」を促進します。学業成績につながるといわれています。運動が脳に与える効果にはもう一つ非常に大切なことがあります。体を動かすと頭がすっきりするのは、運動することで脳の中の感情、ストレスに関わる偏桃体、その横にある海馬の不安を増強する加活動を抑えてくれてストレスが発散されます。体を動かすことは、認知機能、判断するカ、ストレス発散にも、感情をコントロールするのにも良い、いいこと尽くめです。

小学校で1時間目が始まる前に有酸素運動、校庭を一周するだけでも学業成績があがるなどの報告も世界で報告されています。運動は脳が変化する力「可塑性」を持ち上げるといわれています。大事なことです。一方で子どもたちの運動を阻害する要因としてゲーム、スマホ、タブレットがあります。運動量の減少により肥満になってしまうと動脈硬化のリスクが高まるだけでなく脳の海馬の萎縮を促し、将来的な記憶力の低下にもつながり兼ねない。外で遊ぶことがいかに大切か、ということです。

運動といっても粗大運動だけでなく手先を使う高知運動があります。特に楽器演奏が脳の発達に非常にいいといわれています。楽譜を見て一時的に覚える、実行機能、空間認知、リズムが狂ったらフィードバックするなどさまざまな領域を使います。子どもたちが楽器に親しむことで実際に脳が発達します。子どもたちが好奇心をもって熱中することは何でも脳の発達にいいのですが、熱中するものを探している子どもたちがいれば楽器演奏はとても素晴らしいです。8歳~10歳頃は英語の読み書きはいいのですが、リスニングに慣れておくとすごくいいです。小学校の中学年くらいまでに、ちょっと耳を慣らすといいと言われます。

【脳の可塑性】

次のメッセージは非常に大事です。

子どもが大きくなってからの楽器演奏は遅いのでは?年をとってからの英語は遅いのでは?と思われる方がいるかもしれません。8 歳から始めたら遅いのか?70 歳からだと遅いのか。可塑性と言って変化をする力が常にあるのです。これは脳科学的にとって大変大事なことです。3 歳から始めるのと 80 歳から始めるのがどう違うのかというと、あるレベルに達するまでの努力の時間は多くかかります。しかし確実に伸びる、ちょっと時間がかかるだけなのです。思い立った時に始めれば確実に伸びるのです。

生まれた時からずっとではありますが、小学生期、中学生期、子どもたちがさらに大きくなってくると、脳の一番前の前頭前野は人間らしく考えたり、想像する、コミュニケーションに関わる領域となります。コミュニケーションがなんで大事かというと、常に相手の表情、しぐさ、声の抑揚で相手を常に考えながら無意識のうちにコミュニケーションが成り立つようにしています。会話は脳の発達、心の発達に大変重要です。子どもたちの語彙力、子どもたちの能力が開花します。コミュニケーションスキルが高いと学業や大人の就職にも関ります。どうぜ自分は会話が下手だなどは全くなくて訓練していくと確実についてきます。子どもたちとたくさん、楽しく会話をすることがとても大事、相手の気持ちを理解して適切な行動をとる共感性が非常に大事です。1970年代と今を比べると、その能力がどんどん下がっていることがわかってきています。おそらく文字でのコミュニケーションが増えたことが原因ではないかと言われています。ゲーム、SNSがやめられない、以前は意思が弱いだけと言われていましたがWHOでも明確に疾患であるとなっています。とは言え、ネットはやめられない、新しいことを知りたい好奇心がネット情報に向かうとゴシップネタに行きがちでエンドレスに続き兼ねないということがわかっています。

ネットコミュニケーションは SNS で人につながっているから幸せかというと、むしろ孤独を感じるともいわれています。対面のコミュニケーションをすればするほど幸福感が向上するといわれています。 SNS の恩恵も受けているが、そこに重きを置きすぎると問題になります。ダイナミックに脳が発達して いる時期に、SNSにかける時間が多くなるほど本来できることができなくなる。間接的な機会損失こそが将来の機会損失になります。私たち大人ですらやめられないものを子どもたちは抑制系統が未発達なので大人がある程度時間を決めるしかない、子どもたちにすべてを委ねるのは難しいと思います。興味を持つ前に、外の世界に興味を持たせることも大事です。

【生活習慣】

睡眠、寝ることがとても大事です。海馬が発達しますし、寝ることで記憶、物を覚えます。 寝た方が覚えられます。記憶も定着し、海馬の領域の発達も促進します。寝ないことは学業成績にもダイレクトに響きます。体を休ませることだけでなく、記憶を固定し、感情のコントロールをしやすくなるといわれています。学齢期に9時間ほど寝ることは大切です。

どうしても忙しくてスマホやタブレットで育児をしなくてはいけなくなる場面もあると思います。ブルーライトはメラトニン(眠けに関わるホルモン)を妨げてしまい睡眠の質が下がります。寝る前はできるだけ控えることが非常に大事になります。また、SNS が気になって眠れなくなる、取り残される恐怖があります。使い方を考えないと生活習慣に影響があります。食事も重要です。しっかり朝ごはんを食べる。子どもたちの脳は大人の脳の 1.5~2 倍のエネルギーを使ってダイナミックに発達しています。砂糖の多いパンなどよりは普通のパン、白米のような血糖値が急激に上がらないものが良いといわれています。青魚が脳の発達や認知症に良いのですが、だからと言ってそればかり食べると逆に良くないこともわかっています。品目多く、ちょっとカロリーを抑えながら、和食中心が良いです。朝食は抜かずにゆっくり食べることが子どもたちの脳の発達にも重要です。

【自己肯定感】

自分を大切にできる気持ちはどうやって伸ばすのかというと、いくつかの研究で、愛着形成、愛情、絆、自然体験も大事だといわれています。子どもたちが頑張っている時に愛情をかけて褒めてあげる。何でもかんでもほめるのではなく、社会的なマナーを破るような時はしっかり叱ってあげることも大事です。どう褒めるのかが重要で、私たちは子どもたちの才能や知性を褒めればいいのか、努力を褒めればいいのか。才能や知性を褒めると、そこに傷つくことは逆にしない方向になってしまうということになる。過程を褒めてあげること、努力を誉めることで、ますます努力をするようになるということが言われています。何に一生懸命努力しているのか、達成するかを静かに見守りながら、達成した時にこんなに努力をしたから達成できた、と褒めることがいいです。

【児童館・児童クラブの存在意義】

様々な体験ができます。体験が好奇心に繋がります。子ども同士が関り、子どもと大人が関り、子どもが真ん中になって地域社会の様々な大人が関わる。コミュケーションそのものです。子どもたちにいかに豊かな環境を与えて多様なコミュニケーションをさせてあげられるかが重要で、児童館がその一役を担っていると思います。地域・学校・児童館がつながってできることがあります。私は児童館やピアニストにお力添えをいただきながら楽器演奏のすばらしさを伝えています。リアルな世界を見せてあげないと子どもたちが興味を持てないこともあると思う。脳の発達について話し、プロが目の前で楽器を演奏する活動をしています。

最後に、

- ・脳の発達には領域による差がある。・感覚・運動・言語そして高次認知機能の発達と続く。
- ・睡眠・食事などの生活習慣も脳発達に大きな影響を与える。・自己肯定感も脳発達に有用。
- ・読書・アウトドア体験も知的好奇心を伸ばす上で有用。 をお伝えし、終わりと致します。

動画配信 子育て支援室分科会 「わたしたちにできること 児童館・児童センターにおける子育て支援室」

◇概要

人形劇や乳幼児親子へのインタビューをまじえて、仙台市における児童館・児童センターでの子育て支援室の役割や現状と、子育て支援室を持つ仙台市内10館の児童館・児童センターを紹介する動画を作成し、配信しました。

◇分科会内容

仙台市の児童館・児童センターは地域の身近な拠点として子育て支援の窓口となり、子育て支援事業を 実施しています。しかし、同時に放課後児童健全育成事業(児童クラブ)も行っていることから、乳幼児 親子が安心して過ごすことができるように、仙台市は乳幼児親子の専用スペースとして子育て支援室を平 成19年度より整備し、現在は市内10館の児童館・児童センターに設置した経緯を子育て支援室の動画 とともに紹介しました。

また、実際に子育て支援室を利用している乳幼児親子にインタビューを行うことで、乳幼児親子にとって子育て支援室が安心して過ごすことのできる場所だということを利用者自身の声で伝えることができたのではないかと思います。

仙台市内の子育て支援室のある10館の児童館・児童センターの紹介では、コロナ禍でも安心して乳幼児親子が過ごすことのできる子育て支援室の存在と、それぞれの館の行事や取り組みを伝えることができました。「わたしたちにできること」は「こどもがまんなか」ですくすくと育つことができるよう、子育て支援室という安心して過ごすことのできる環境を作り、子育て支援のネットワークを活用して、乳幼児親子が支援機関や行政と「つながる」、また乳幼児親子同士が「つながる」機会を作ることだと動画を通して伝えられたのではないかと思います。





◇担当者感想

子育て支援室分科会として、子育て支援室について正確に伝えることができるようにと仙台市児童クラブ事業推進課にご協力いただき、子育て支援室についての勉強会を実施させていただいたり、分科会メンバー所属児童館での子育て支援行事に参加することで、子育て支援とは何かと考える機会ができたりなど、分科会の活動の中で貴重な経験を色々とさせていただきました。

また、動画を作成するにあたり、市内10館の 児童館・児童センターより子育て支援室に関わる 画像や動画等の提供の協力をいただきました。

10館の子育て支援への想いが、運営団体の枠

を超えてつながったことで、仙台市の児童館・児童センターの子育て支援室、子育て支援の取り組みを全国に伝える動画が作成できたのだと思います。

今後も子育て支援の活動が他館ではどのように行われているのか、情報交換や意見交換を行う場を設定するなど、仙台市の児童館・児童センターがつながっていくことで、仙台市全体の子育て支援のスキルアップを図ることができるのではと考えます。

みやぎ大会は終了しましたが、ここからまた、いつだって「こどもがまんなか」に「つながる」子育て 支援、子育て支援室の運営に取り組んでいきたいです。



◇企画委員

小岩 孝子 NPO法人FORYOUにこにこの家 理事長

大久保 佳奈子 仙台市新田児童館 副館長

市瀬 美香 仙台市住吉台児童センター 児童厚生員 阿部 早希子 仙台市荒町児童館 放課後児童支援員

川端 晶子 仙台市小松島児童館 主任 松木 咲樹 仙台市原町児童館 主任

音楽協力: SENDAI NPO子育て応援隊 ピンポンパン☆

分科会1「震災から10年の今,未来に伝えたい 防災・減災~子どもたちが自ら考えるために~」

◇概要

仙台市防災減災アドバイザーの折腹氏から、いざという時に役に立つ「もの」や「こと」などの講話をしていただき、次に宮城県白石市、角田市、仙台市の3児童館が、「震災から今」の防災・減災活動や震災の教訓を活かす児童館の取り組みを発表しました。

震災から10年の今、全国各地で地震だけでなく、台風や洪水、豪雨などさまざまな災害が起こっています。 震災を体験した私達だからこそ、教訓を伝えていかなければならないと考えています。

◇講師:仙台市危機管理部防災減災アドバイザー 折腹 久直 氏

2000年 仙台市消防局採用

2020年 仙台市防災減災アドバイザー就任

テレビやラジオ、新聞、市民講座などで防災啓発を行う。

◇分科会内容

1, 講演

「仙台市防災減災アドバイザー」は、地震のみならず様々な災害への備えを伝え、啓発活動を行うために設置されました。折腹さんは6代目の防災減災アドバイザーで、テレビやラジオ、新聞だけでなく、YouTubeでも動画配信しており、手軽に楽しくできる防災の取り組みを紹介しています。

電気・ガス・水道のライフラインが停止したらどうなるのか、停止した時の備えの必要性を説明しました。そしてペットボトルを使って実験を行い、非常用トイレの有用性について伝えてくれました。また、ペットボトルとケミカルライト(サイリウム)を使って簡単に作れるランタンや、新聞紙を使って作れるスリッパやグローブなど、子どもたちが楽しく作って学べるワークショップを紹介してくれました。

最後に、東日本大震災と令和元年台風の避難者数を比較したデータを示してくれました。台風時の避難 者数の少なさに触れ、避難することの大切さ、命を守ることの大切さを訴えていました。





2, 児童館の取り組み発表

白石市第一・第二児童館、角田市角田児童センター、仙台市田子児童館、将監児童館、東四郎丸児童館 の6つの児童館から震災後の取り組みなどを発表しました。

白石市第一・第二児童館からは、当時毎日測っていた放射線量の測定のことや安全安心なまちを目指

し、避難する場所などを調べ、マップを作成するまち探検や 地域の方と一緒に仙台発そなえゲームを行った 3.11 笑顔の イベントのことを話し、防災・減災の取り組みを伝えました。 角田児童センターは、震災当時の町の被害状況や市内や 農作物等の放射線量の測定について話をしました。



仙台市田子児童館は、震災当時に勤めていた泉区松陵児童センターの被害の様子や、震災後3年の岡田児童館での避難タワーへの避難訓練の様子を伝えました。現在勤務の田子児童館では、震災後に卵の殻をガラス片に見立てた体験や新聞紙でのスリッパづくりなどの取り組みをしており、普段からも津波を意識した動きを取り入れていることを紹介しました。

仙台市将監児童館では、緊急時の対応や月1回の避難訓練を行っており、普段から静かに放送を聞く、 マグネットで出欠確認、落下防止対策などの日常からの取り組みを話しました。

仙台市東四郎丸児童館は、緊急避難所になった震災当時の様子を伝え、震災後も地域とつながって行っているまち探検や子どもたちが家庭で準備した防災リュックをもって避難する避難訓練などを行って、子どもたちに「自分の命は自分で守る」ことを伝えている防災・減災の取り組みを発表しました。

◇参加者数

135 名

◇担当者感想

新型コロナウィルスの影響が心配される中、全国児童館・児童クラブみやぎ大会はオンラインでの開催となりましたが、全国からたくさんの方々に防災減災分科会に参加いただきました。

オンラインでの開催ということもあり、少し不安がありましたが、大きなトラブルもなく無事に終了でき、 全国のみなさんとつながれたことを嬉しく思っています。

日本各地で地震だけはなく台風、洪水、ゲリラ豪雨など様々な災害が起こっている今、いざという時の備えが必要です。折腹さんの講話や各児童館の取り組みの発表では備えの大切さを伝えられたのではないかと思います。

東日本大震災では、公助もままならない状態でした。公助に頼るのではなく、自分でそなえる「自助」・みんなでそなえる「共助」・つながって「連携」が大切になってきます。災害が起こったときは、児童館だけでは対応できないことがあります。みやぎ大会のテーマでもある「つながる」ことで、いざという時に助け合うことができます。児童館が学校や地域と普段からつながっておくこと、顔の見える関係づくりをしておくことで、いざという時にスムーズに連携できると考えています。

震災から今まで全国のみなさんに心温まる応援をいただきましたことに感謝しながら、これからも「そなえ」の大切さ、「つながる」ことの大切さを伝えていきたいと思います。

◇企画委員

大野 悠人 白石市第二児童館 館長

吾妻 詩帆里 白石市第二児童館 児童厚生員

八島 礼子 仙台市東四郎丸児童館 児童厚生員

中村 惠美 角田市角田児童センター 館長

阿部 香織 仙台市田子児童館 主任

大泉 広奈 仙台市将監児童館 児童厚生員



分科会2「社会教育と児童館・児童クラブ ~子どもの参画 意義・方法・ポイント~」

◇概要

東北学院大学教養学部学部長水谷修先生を講師に迎え、講演を通してなぜ「社会教育」と「児童館・児童クラブ」が繋がっていく必要があるのか、そのような繋がりが社会の中の「子ども・若者」の位置づけをどのように変えていくのかを学びました。

また分科会の最後には、「明日からの第1歩」と題してこの講演を聞いて「始めてみたいこと・やりたいこと」を参加者1人1人が紙に書き、画面上に掲げる簡単ワークも行いました。

◇講師: 東北学院大学教養学部学部長水谷修氏

東北学院大学教養学部学部長。宮城県の生涯学習振興計画の策定、国立青少年 教育振興機構の自己採点・評価活動、国立社会教育実践研究センターにおける 防災・減災教育に関する調査など各種調査活動に参加。仙台市公民館運営審議会 委員長として「仙台プラン」、宮城県社会教育委員の会議議長として「地域をつくる 子どもたち」などの意見書の取りまとめにあたる。

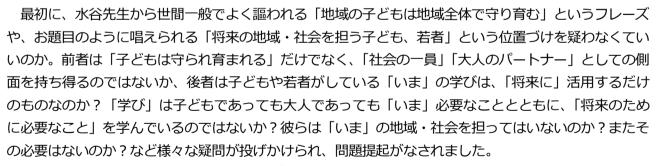


県内外で社会教育や生涯教育の講師を努めている。

◇分科会内容

講師講演

「分科会 2 」では社会教育の視点から地域への「子どもの参画」を考え、その 意義について東北学院大学教養学部学部長水谷修先生に講演をしていただきました。



また社会参加・参画への意欲についてのデータから、日本の若者は他の国の若者より社会現象を自ら変える可能性を低く感じており、これは、そのような機会を子どもの頃から与えられていない、考えて行動することが少ないからではないか、加えて子どもを取り巻く環境の変化(三間・関係・面白さの喪失)により、他者との関わりを通して自分の力を活かせた・他者の役に立ったなどといった「自己の周りで完結していては得にくい面白さ」を感じる機会が減少している。自らの「学び」と「現実」をつなげられず、そのた



めに将来を描けず大人になることへの不安を抱えているが、そこに学校や地域の支援が届いていないのではないか、という青少年期の重要な発達課題上の問題について言及されました。これらの子ども問題の解



決や、自分探しの支援の場に学校がなることは難しく(学校は効率化・システム化・画一化が進み、自分で考えるゆとりがないため)学校とは異なる「空間と時間と仲間」を地域が用意し、自分探しを支援する働きかけが重要である。自分の居場所だと思えるところ、興味関心を広めたり深めたりできるところ、自分を受け入れ励ましてくれるところ、そして将来の自分の姿のモデルやヒントを示してくれるところ、さ



らには大人と一緒に「地域」の一員として参加・参画できるところを地域 に用意する必要があるのではないか。児童館もその役割を担っていると述 べられ、さらにそのための支援の方法も提示されました。

◇担当者感想

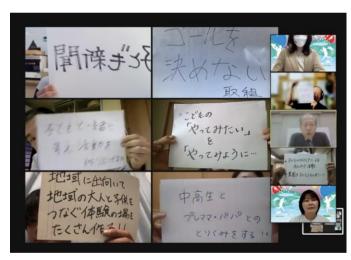
「なぜ?」「それは正しいの?」が満載の水谷先生の講義。資料をめくって1ページ目から「子ども・若者の位置づけ」はこれでよいのか?参加し

ている皆さんはどう思いますか?と50分超の講義は自分の中で自らの考えを探すものとなりました。 「社会教育と児童館・児童クラブ」がどう繋がるのかという疑問以前に、子どもや若者のいる今の環境、 発達課題へ取り組む機会さえ多く与えられず、そのため発達課題をクリアすることが難しいという現状は、 若者の年齢を遠く離れた私ですら苦しさを感じるものでした。

親、先生以外の大人と関わる場は地域の中で用意することが可能であり、その中に児童館児童クラブも 含まれます。私たちは非効率化(うまくいかなくても)・非システム化(行き当たりばったり)・非画一化 (皆と同じじゃなくても)の良さを知る数少ない仕事をしています。※()内は私の解釈です。それは子

どもの参画の良さ・面白さ・楽しさを知っている ことに他なりません。あの発想の突拍子のなさ、 集中力の高さ、粘り強さを一緒に面白がり、大人 たちと出会い、興味関心を広げ深める「偶然・た またまの出会い」を計画できるのが児童館ではな いでしょうか?

139名という参加数は、子ども達のことを考える人がこんなにも多くいるのだということを実感でき、大きな支えとなりました。水谷先生はじめ参加者の皆さん、Zoom サポートの皆さん、本当にありがとうございました。



「明日からの第1歩」として、皆さんからメッセージをいただきました。

◇参加者数

139 名

◇企画委員

堀田井 裕子 仙台市片平児童館 主任 大友 育美 山元町児童館 総括支援員 伊藤 牧子 仙台市燕沢児童館 主任 木川田 恵 大崎市古川中央児童館 児童厚生員兼支援員



分科会3「あそびのかたち ~児童館×NP0 との協働プロジェクト」

◇概要

ゲームやパソコンなどのデジタル世界の中で生活することが当たり前となっている昨今。子どもたちに必要な体験とは何なのでしょうか?

震災以降に、被災した児童館と外部団体とで行った協働プロジェクトの取り組みや支援の形、現在の活動を通して、これからの子どもたちに必要な「あそびのかたち」とは何か、そしてそれをサポートする大人の役割とは何かを考え理解を深めました。

◇講師

藤原 久美子 氏

(NPO 法人 東北の造形作家を支援する会(SOAT)理事長) 渡邊 庸一 氏

(NPO 法人 東北の造形作家を支援する会 (SOAT) 副事務局長)

2009年5月 任意団体「東北の画家を支援する会」発起

2010年2月 NPO法人認証。「特定非営利活動法人 東北の造形作家を支援する会」(略称 SOAT) を設立。東北に縁のある造形作家の活動を支援。芸術を身近にし、地域文化の向上及び子どもの育成、地域社会貢献に寄与する事を目的としている。

◇分科会内容 事例発表 1

東日本大震災で被災した宮城県内の児童館を対象にして 行ったアートワークショップ「児童館協働プロジェクト」の取り組みと経緯 NPO 法人 東北の造形作家を支援する会 理事長 藤原 久美子氏

① 復興支援活動の始まり

長引く避難所生活に疲弊し、不安により苛立つ大人の顔色をうかがいながらストレスを 抱えて暮らす子どもたちに、笑顔になってほしいという思いから支援活動を始める。



・2013年7月~2014年1月 幸町児童館×SOAT・5児童館協働事業

仙台市内の被災した5児童館の子どもたちを対象に、それぞれの環境に合わせたアートワークショップによる「心のケア」支援活動を開始。協働事業発表会を開催することで子どもたちと児童館職員のモチベーションが上がり、達成感を共有することが出来た。そして、協働することで生まれる大きな相乗効果を実感した。

- ・2014年3月~2015年2月 「SOAT・児童館協働プロジェクト」 宮城県内で被災した5か所の児童館に通う子どもたちを対象とした「心のケアと育成」を目的 としたアートワークショップを行い、合同の発表会を行うことでの成果を諮る。
- ・2016 年~「SOAT×児童館協働プロジェクト」(NPO 法人せんだい杜の子ども劇場) 児童館訪問及び自然体験活動アートワークショップを通して子どもたちの自主性、社会性、 創造性などを身につける活動を継続中。



事例発表 2

子どもたちに必要な「あそびのかたち」とは何か、そしてそれをサポートする大人の役割とは何か

NPO 法人 東北の造形作家を支援する会 副事務局長 渡邊 廣一氏

(1)「新しいアソビノカタチ」

SOAT が考えるアソビは全てがアートであり、非認知的な面へのかかわりを中心とした活動と安全の体験である。

- (2)「非認知面への大人の関わり」8つのポイント
- ①五感(特に触覚)による体験の重視…触れてみる
- ②動機付けや意欲、自己認識への働きかけ…そそのかす、挑戦させる
- ③創造性の優先…とにかく何かを作ってみるように促す
- ④周りとのコミュニケーションの促し…一人で出来ない時はどうする?
- ⑤問題把握や試行錯誤の機会づくり…どうやったらいい?
- ⑥自分のオリジナリティの追及…ここがいいね
- ⑦賞賛…すごいね
- ⑧アートに失敗はない…ダメと言わない、上手くいくように誘導しない
- (3) 「危険と支援のバランス」
- ①子どもの行動をよく観察する…支援(ことばがけ・補助)のタイミング
- ※むやみに手や口を出さない。
- ②どの程度の怪我をしそうか理由を含め予測する。
- ③同じことをしていても危険基準は子どもによって異なる→観察して危険要素を分析する。

以上のような大変興味深い内容のお話しでした。

◇参加者数

193 名

◇担当者感想

分科会3では、「協働」そして「連携」をキーワードに展開してきました。

このコロナ禍での1年のなかで、日々刻々と状況が変化し、たくさんの課題が重なり、ふと顔をあげると震災の状況が浮かび上がってきました。その頃たくさんの支援、協力をいただき子どもを真ん中に笑顔の輪が咲き、元気と勇気をもらいました。

SOAT さんとの対談の中には、子どもたちにとって生活は限りなく楽しい、興味と興奮に満ち溢れ「本気で自分と向き合う体験」「度胸」「慎重さ」「勇気」を分かち合う仲間を大切にするための「連携」や次世代が健全に育つ環境を NPO 団体や地域の団体・子どもに関わる諸団体が、子どもたちの活動を「地域ぐるみで共に支え育ち合う」仕組みを多様な主体として「協働」で作り出すことが不可欠だというメッセージが込められていました。

子どもたちは「地域」で、「多様な出会い」により育っていきます。地域に根づいた児童館と NPO 団体がタッグを組んで、新たな価値を創造することが今後もできればと思います。

◇企画委員

永浜 賢道 利府町西部児童館 館長

柏木 悟司 大和町吉岡児童館 職員

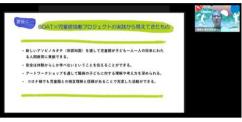
金谷 三平 富谷市富ケ丘小学校児童クラブ 主任

石森 ももこ 富谷市成田小学校児童クラブ 支援員

羽渕 あゆみ 大衡村大衡児童館 児童厚生員

今野 恭子 松島町児童館 児童厚生員









分科会4「児童館・児童クラブ×地域×家庭×学校= ∞の可能性!~コミュニティ・スクールと児童館~」

◇概要

「コミュニティ・スクール」とは、なんでしょうか。どういう仕組みのことを指すのでしょうか。 これからの学校は、学校や家庭だけでなく、豊かな地域資源との連携・協働によって支えていくようになります。学校と保護者、地域が一体となって学校運営に参画する仕組みを持った学校のことを、「コミュニティ・スクール」といいます。ここでは、仙台市立荒町小学校の実例と実践をもとに、地域の子どもたちを大きく育てるために、これからの児童館は、どのように関わっていったらよいのか、一緒に考えていきます。

◇講師

- ・仙台市立荒町小学校 校長 田邊 泰宏 氏
 - 1987年 宮城県立養護学校(現在の支援学校)小学部教諭
 - 1990年 仙台市立小学校教諭
 - 2006年~ 区中央市民センター社会教育主事や仙台市立小学校教頭を経て

仙台市教育委員会 (学力向上、小中連携・地域連携、小規模校の統廃合担当部署)

- 2015年 仙台市立小学校長
- 2017年 仙台市教育委員会 以前と同じ部署
- 2021年 仙台市立荒町小学校長として勤務 現在に至る
- ・仙台市立荒町小学校 地域連携担当教諭 鈴木 美佐緒 氏
 - 1990年 仙台市立小学校教諭
 - 2019年 仙台市立荒町小学校勤務。現在、副教務、地域連携担当。

◇分科会内容

(1) コミニュティスクールとは

学校と保護者、地域が一体となって、学校運営に参画する仕組みを持った学校のことを指します。法律に基づいた仕組みで、H29年の法改正により設置が努力義務になっています。コミニュティスクール導入の背景として、児童生徒数の減少、学校が抱える課題の複雑化、地域社会のつながりや支えあいの希薄化などがあります。学校だけでは、子どもたちを育てきれない時代に変化してきているのです。



コミニュティスクールには、これからの時代を生き抜く力の育成(学校だけでは得られない知識・経験・能力)と、地域住民が自ら地域を創っていくという「主体的の意識」への転換が求められています。 つまりは、学校づくりと地域づくりが同時に実現することが、目標となっています。

(2) コミニュティスクールの魅力とは

①子どもにとって

子どもたちの学びや体験活動が充実する。地域の方に認められる機会が増え、 自己肯定感や他人を思いやる心が育つ。地域の担い手としての自覚が高まる。など。

②教職員にとって

地域の方々の理解と協力を得た学校運営が実現する。地域人材に支えられ、 教育活動が充実する地域の協力により、子どもと向き合う時間の確保ができる。など。

③保護者にとって

学校や地域に対する理解が深まる。地域で子どもたちが育てられているという安心感がある。など。 ④地域住民にとって

経験を生かすことで、生きがいや自己有用感につながる。

学校が社会的なつながりを得られる場となり、地域のよりどころとなる。など。

(3) 仙台市立荒町小学校と地域の取り組み(小学校付近には、荒町商店街がある)

社会に開かれた教育課程の実施を目標に、地域との連携協働に力を注いでいます。地域の人的、 物的資源を活用することによって、学校教育を学校内に閉じずに、その目指すところを社会と共有、 連携しながら実現を図っていく取り組みをしています。

- ① 3年生・・町探検で地域と関わり、そこで「働く・暮らす」人々について考えることができ、 地域に愛着や親しみを持つことができた。荒町の伝統文化である「回文団扇」の作成や荒町の歌を 歌詞は子どもたちの言葉を紡ぎ合わせて作り、それを地域の方々とリモートで合唱し、SNS で発 信した。
- ② 6年生・・荒町小 radio。地域のラジオ局の方々と連携し、地域の良さを発信した。子どもたちは地域の一員としての自覚を持ち、地域に愛着を持つようになった。
- ③ 児童館との連携・・子どもに関することで、情報交換会を行う。また、日ごろお世話になっている 学校評価委員、児童館長、地域の方々、商店街の方々がどんな思いを 持っているかなどを聞く機会を設け、各学年の年間指導計画づくり (生活科、総合的な学習の時間)の参考にさせていただいている。

◇参加者数

187 名

◇担当者感想

分科会4は全国各地から180名を超える方々が参加してくださいました。小学校と地域、児童館のつながりは、みなさん興味があるところだと改めて感じました。

「コミュニティスクール」と聞くと、大きな事業でなかなか踏み込めないイメージがありましたが、講師 のお話を聞いて参加者の方々もその仕組みについて知ることができたと思います。

私たち児童館も、小学校や地域の方々と顔を合わせ、見える繋がりにし、学校運営に関わっていく必要があるのだと実感しました。

田邊校長先生は、話の中で、地域の方々(児童館も含め)にはもっと学校運営に入ってきてほしいということ、地域力を生かして子どもたちを一緒に育てていってほしいという思いを発せられていました。児童館側としてはどんな立ち位置で「運営」を共にしていくのがいいのか、どのような関わりができるのか、それぞれの地域に照らし合わせて想像した時間であったように思います。

分科会のあとに「一緒に取り組んできた児童館側や地域としての思いについても知りたかった」という意見が寄せられました。 1 2 0 分の分科会枠であれば、児童館としての思いと、自分たちの地域ではどのような取り組みができるのか「可能性を探るワークショップ」を行う予定で、参加者に具体的なイメージを持ってもらえることを目標にしていました。今回そこまで実施できなかったことが残念でした。しかし、タイトルに掲げたように、児童館×地域×家庭×学校=無限大(∞)の可能性があることを信じて、地域の子どもたちを育てる一員として、これからも尽力していきたいと思えた分科会でした。

◇企画委員

瀬戸 理音 ワーカーズコープ 事業所所長

橋本 由美 名取市増田西児童センター 児童厚生員

大迫 陽子 岩沼市西児童センター 児童厚生員



分科会5「児童館の今、未来!~最新の健全育成施策 を踏まえて、これからの児童館の在り方を考える~」

◇概要

分科会5では講師に厚生労働省子ども家庭局子育て支援課 阿南健太郎児童健全育成専門官をお招きして、最新の健全育成の施策についてお話をしていただき、子どもたち、地域の為に健全育成活動を続けている児童館の取り組み事例を紐解いていただきました。分科会を進めていく中で、参加者それぞれがこれからの児童館の活動について、またこれからの児童館の在り方について改めて考える機会となりました。

◇講師: 厚生労働省子ども家庭局子育て支援課 阿南健太郎児童健全育成専門官

今大会の主催団体でもある児童健全育成推進財団で長年児童館・ 児童クラブの支援に尽力。

10年前の東日本大震災発生時には、宮城県にも何度も足を運び仮設児童館の建設を始め、様々な側面から児童館や子どもたちの支援を中心的に担当してきた。

昨年度より厚生労働省で専門官として活躍中。



◇分科会内容

<u>1,講師講話</u>

第一部の講話では、阿南専門官より児童館の制度や状況についてお話をしていただきました。児童福祉法第 40 条は制定後一度も改正されていないこと、そのことから今の時代でも児童館が行う遊びを通した健全育成が重要であることがわかりました。それに付随する児童館に係る規程や特徴等をわかりやすく伝えていただきました。児童館ガイドラインの中にある児童館の特性について、子どもや地域の方が参画できる拠点性、子どもたちの多様な課題に対応するための多機能性、地域に密着している地域性があることがわかりました。それらを踏まえた上で全国の実践事例に触れていただきながら、ガイドラインは机上の空論ではないことを教えていただきました。

また放課後児童クラブについても触れていただきました。放課後児童クラブは現在も増加傾向にあり、 需要が高まっていることを実感しました。児童館だけではなく放課後児童クラブにも第三者評価基準を今 年度から策定し、育成支援の質を高める取り組みに対して足並みをそろえることができるようになったこ とを知りました。

放課後児童クラブに登録していない子どもたちに対する支援の取り組みや議論をされていることの紹介もありました。そのような放課後児童対策に対する財政支援もされていることの紹介がありました。

2, パネルディスカッション

第 2 部ではコロナ禍での活動について、宮城県の児童館から 実践事例を報告し、阿南専門官にコーディネートしていただき ました。まず、蔵王町永野児童館からは、コロナ禍での日常の 取り組みについての報告がありました。日々の消毒の工夫や密 を避ける工夫、また保護者とのコミュニケーションの取り組み



としてホワイトボードの活用についての発表がありました。仙台市長町児童館からはコロナ禍での地域との取り組み事例として、子育て支援クラブ(母親クラブ)との共催による防災クイズの発表がありました。富谷市日吉台児童クラブではコロナ禍での野外活動についての取り組みとして、パチンコ作成や野外炊飯等の取り組みについての発表がありました。



発表後、阿南専門官と3人の発表者のディスカッションを行いました。阿南専門官の視点でやり取りがあり、それぞれの事例を深めていくことができました。

最後に阿南専門官から今までの感染症対策も含めた取り組みをしっかりと記録に残していくことが重要であるとお話がありました。今後の児童館は児童福祉施設としていったいどんな事を残していくべきか、何でもできる施設だからこそしっかりと議論をしていく必要があるということでした。

◇参加者数141 名





◇担当者感想

私は今回のお話を聞いてまず思ったことは、児童館ってすごい!ということでした。今日のお話の中であったガイドラインによる多機能性は、まさに自分が面白いと感じて働いている理由でもあります。今回阿南専門官に改めて言葉にしていただいたことで、児童館の魅力や面白さを再確認することができました。また、厚生労働省では児童館や放課後児童クラブだけではなく、それ以外の放課後の子どもに対しても様々な議論をしていただいていることを知りました。仙台ではどうしても放課後児童クラブに目が行きがちになってしまっている所がありますが、児童クラブに来ている子どもたちだけがすべてではないということを感じました。コロナ禍での児童館の取り組みでは、明日から使えそうなアイデアがたくさん紹介されていたり、どこの児童館もコロナ禍を同じように苦労しながら一緒に運営をしてきたことを感じました。今回のみやぎ大会は僕にとって忘れられないものになると思います。



◇企画委員

田中 悠也 仙台市東宮城野マイスクール児童館 館長

平山 乾悦 みやぎ・せんだい子どもの丘 理事長

福原 孝 富谷市富谷小学校児童クラブ 主任

齋藤 俊介 仙台市長町児童館 主任

渡辺 正史 蔵王町永野児童館 児童厚牛員

若松 みゆき 仙台市長命ヶ丘児童センター 児童厚生員

本郷 由貴 富谷市日吉台小学校児童クラブ 放課後児童支援員



分科会6「子どもの発達 ~子どもたちの育ちと暮らしを支えるために~」

◇概要

第1部のシンポジウムでは教育、子育て、福祉の分野を代表する4名の方々から、各分野の現状と課題 を話していただき、課題解決に向けて分野を超えた連携・協働についてどうあるべきかを検討しました。 第2部では仙台市巡回指導スーパーバイザーでもある野口先生と植木田先生に子どもたちの「自立」と 「社会参加」を可能とするための支援の在り方と各分野との連携についてお聞きしました。本分科会では 現状と課題を共有し、発信していくことが趣旨となります。

◇講師

野口 和人 氏・博士 (教育学)・臨床発達心理士学校心理士・特別支援教育士 SV

- · 東北大学大学院教育学研究科教授
- ·教育心理学講座 発達障害学分野
- ・仙台市巡回指導スーパーバイザー・仙台市支援検討会議委員

· 公認心理士

- 植木田 潤 氏・宮城教育大学特別支援教育講座教授
 - ・特別支援教育士 SV ・臨床心理十
 - ・仙台市巡回指導スーパーバイザー・仙台市支援検討会議委員

◇分科会内容

第1部 シンポジウム 他分野連携の中で見えてきたこと

[シンポジスト]

- ・仙台市立向山小学校 教頭 齋藤 まり子 氏
- ・NPO 法人 FOR YOU にこにこの家 理事長 小岩 孝子 氏
- ・NPO 法人 アフタースクールぱるけ 代表理事 谷津 尚美 氏
- ・仙台市自閉症児者相談センター センター長 黒澤 哲 氏 [進 行]



黒澤氏 谷津氏 小岩氏

・仙台市北部発達相談支援センター 所長 蔦森 武夫 氏

近年、学齢期の要支援児童数が増加しています。こうした現状を踏まえ、切れ目のない支援を実現する ための連携や協働の在り方について、各分野の代表の方からは次のような意見がありました。「学校は壁 が高いと言われますが、学校と児童館の連携は欠かすことができないと考えています。実際に情報交換を 行っており、学校の指導に生かしています。」「児童館は家庭と学校をつなぐ役割を担っており、子どもた ちの成長を願うことが、障害のあるなしにかかわらず、健全な成長につながると考えています。」「福祉の 分野も児童館との連携によって、情報を得ながらその子に寄り添った支援を行っています。一方、家庭環 境に課題がある場合は、生活に不適応が生じる場合も多く、より多くの専門機関とつながりながら支援し ていくことの必要性を感じています。」また、ゲームやスマホなどのメディア依存によって対人関係が阻 害されているという課題もあるとのことでした。まとめとして、子どもをまん中に置いて暮らし全体を支 えていくためには各専門分野の人たちが必要なことを伝え合い共有することが大切であり、その子のため のネットワークが他の子のネットワークにもつながっていくとのことでした。

第2部 トークセッション 仙台市児童館の巡回相談実施

[アドバイザー] ・東北大学大学院教育学研究科 教授 野口 和人 氏

· 宮城教育大学特別支援教育講座 教授 植木田 潤 氏

[進 行] ・仙台市北部発達相談支援センター 所長 蔦森 武夫 氏

トークセッションでお二人の先生にお話していただいた一部を紹介します。

子どもたちを理解するときに、将来を見据えて全体的な視野で見ていくことが大切です。巡回指導では、 言葉の力や力関係ではなく子どもたちの考えを引き出せるように意識していますし、児童館には様々な子 どもたちがいてスタッフの皆さんの大変さもよくわかります。子どもたちがどう育ってきたのかを分かっ ていないと今を理解することはできませんから、保護者とコミュニケーションがとれる児童館の情報はと ても有効であると言えます。子どもたちの行動は、大人から見ると困った行動でも子どもにとっては意味 があるのです。

連携については子どもたちが将来社会に出て生きていけるように、その土台作りを様々な分野から支援することが必要です。連携に必要なことは顔の見える関係を作っていくことです。そして、様々な分野が子どものどの部分にアプローチするのか、役割と分担を明確にするために、全体像をみんなで把握することも連携には大事です。現在はスタッフの皆さんのスキルが上がり、個の支援が充実してきた一方、他の児童との支援のバランスが難しくなっているという課題もあります。その場合は、行政と連携して解決していくことも大切です。

◇参加者数 179 名

◇担当者感想

植木田 潤教授 野口 和人教授 蔦森 武夫所長

シンポジウムでは各分野で長く携わってきた方々だからこそ見えている効果的な支援の仕方や連携の在り方があると感じました。子どもたちのために自分たちが考えたことや必要に思うことを伝え合うことが連携の第一歩となることを感じましたので、顔の見える関係を積極的に作っていきたいと思いました。そして、子どもをまん中に置き、様々な分野からその子に必要な部分に働きかけ、役割を分担していくことができれば子どもたちは大きく成長していけることもわかりました。トークセッションでは野口先生と植木田先生から子どもたちをより理解する視点や今後の支援について的確なアドバイスをいただきました。

子どもたちの行動だけでなく、これまでの育ちや家庭の文化を理解することが重要であることも分かりました。子どもたち一人一人の全体像を十分に理解できていただろうかという反省とともに、子供たちの将来に今何が必要なのかを職員みんなで考えていきたいと思いました。そして「こどもをまん中に、つながる」取り組みが、「子どもの発達」に大きく関わっていくことを児童館の中で実践していきたいと思います。今回このみやぎ大会で多くのことを学ぶことができました。ありがとうございました。

◇企画委員

南條 智重 仙台市東四郎丸児童館 館長

羽賀 崇子 仙台市岩切児童館 館長

八巻 真裕美 仙台市鶴ケ谷東マイスクール児童館 主任

金野 稔子 名取市館腰児童センター 館長

猪俣 いよな 岩沼市東児童館 児童厚生員

加藤 真依 仙台市西多賀児童館 児童厚生員

橋口 千穂 仙台市虹の丘児童センター 児童厚生員



分科会7

「市民協働による児童館」

◇概要

市民協働について概略の説明。

仙台市における市民協働について子供未来局局長と仙台市内児童館連絡協議会代表によるトークディスカッション。仙台における市民協働のあゆみ。協働することで「見えたこと・できたこと」

参加者同士による、各館での市民協働の取り組みについて情報交換。

仙台市内の児童館における市民協働の事例発表。

◇講師

■講師紹介

NPO 法人 アスイク 代表理事 大橋雄介 氏 仙台市子供未来局 局長 小林弘美 氏 徳泉寺 住職 関口真爾 氏 にこにこ児童館応援隊 中島信博 氏 立町マイスクール児童館 館長 小林節子 氏

◇分科会内容

1,プロローグ

分科会のキーワードとなる「市民協働」を共通に理解するために、「そもそも市民協働とは何か?」について、お話をいただきました。ひとことで表すと「協働とは、同じ目的に向かって、いろいろな人たちが集まって力を合わせること」と説明があり、市民、地域団体、企業、行政といったさまざまな立場の人が集まって力を合わせるには、お互いのことをしっかりと知ること、知ろうとすることが大切とのお話をいただきました。

2,トークディスカッション

小林弘美局長

平成 11 年に当時の市長が行った「市民協働元年」の宣言をきっかけに、多くの市民(有識者)との話し合いが行われ、その後の公共施設への指定管理者制度の導入と併せて、市民協働は着実にその歩みを進めてきました。そして平成17年、仙台市職員の研修テキストとしても使われる「仙台協働本(こらぼん)」が作られ、市職員の「市民協働」への理解度や意欲を向上させ、仙台市の活発な市民協働の基盤になっています。また、同じ年には、指定管理者制度を導入した児童館が運営を始めました。この運営方法は、市民ニーズへの対応へ市民のノウハウの活用がなされ、即応性のある地域特性を活かした運営を可能にしました。経費の削減が諮られながら、今では多様な児童館運営が展開されています。

斎藤純子代表

市民側の動きとしては、運営団体同士の連絡協議会が設けられました。複数の団体の代表が話し合い、 それぞれのエッセンスを集めた内容を仙台市に提案できることは、協働のひとつだと私は考えています。 仙台市が開催する児童館運営団体会議で、市ができること、運営団体ができることが整理され、より成 果が望める児童館運営を可能にしています。

また、仙台市によるモニタリングの制度も、児童館運営を外の視点で見直すことができ、底上げに繋がっていると感じています。モニタリング時には、市職員の方が各館に出向いてくださることで、お互いの距離を縮めることに繋がっているとも思います。

小林弘美局長

市民協働がうまくいくためには、やはり、同じ目的に向かって本音で話し合うことが欠かせないと思います。現場の実践を行政が制度化していくサイクルが動いていると、市民協働はうまくいくのではないでしょうか。また、「自分ができることは何だろう?」と、お互いに話し合うことで道筋が見えてきます。 震災をともに乗り越えてきた関係が、コロナ禍の現在も活きていると思います。

組織力を強化することも大切で、組織としての力が育っていくと、協働していることが、次の協働を生むことにも繋がっていくと思います。ピンチはチャンス!つながって楽しもう!

3,事例発表

- ○東四郎丸児童館 手をつなぐ児童館 子どもの未来を応援する児童館
- ○立町マイスクール児童館 3施設合同避難訓練について
- ○榴岡児童館 児童館&地域&学校との協働 plus 社会とのネットワーク

4,グループワーク

前半の最後に発表者5名から協働のキーワードとして「感化」「つながってまきこもう」「困りごとから」「思い」「信頼」を掲げてもらいました。グループワークでは「つながり」をテーマにした話題から、各グループともに下記のような話となり「つながり」を体現すると心豊かな未来への突破口となることを共有できました。

- ・忖度しない関係性を築き、当事者意識を持って継続的に関わる事が大切になってくる。
- ・環境や状況によって関係性は異なる。未来を見据えた活動を意識することが大きな鍵。
- 「つながり」を広く深化させるため、「巻き込む」をポイントに取り組む。
- ・信頼関係を構築することは一朝一夕では成し得ない。日々の活動から「できること」を継続して実践することが肝要。それがきっかけで「つながり」の連鎖が社会全体に広がっていくことが可能となる。
- ・其々が抱える困難や理想を共有することが現状を打破する糸口となり十分に活かすことが子どもの幸せ に結びつく。「つながり」に一歩踏み出す。
- ・各自に熱い想いを絶やさないマインドが必要。

◇参加者数

14 名

◇扣当者感想

全国大会のオンラインでの開催は初めての経験でした。それだけに当日までいろいろな不安がありました。でも、スタッフの強力なサポートで、当日はオンラインに関しては、何の不安もなく当日を迎えることができました。まずは、このことをスタッフの皆さんに感謝したいと思います。

さて、私が担当した第 7 分科会は、「市民協働について」がテーマで、アスイク代表理事の大橋さんの プロローグの話から始まり、仙台市子供未来局長の小林さんへ仙台市内児童館連絡協議会代表の斎藤さん のトークディスカッション、そして、市民協働に関する3つの事例発表、最後に全国からの参加者の皆さ んによるリモートでのグループワークと内容は盛り沢山の分科会でした。初めて全国大会に触れた私にと って、それぞれの内容はとても新鮮で興味深いものでした。

今回の全国大会で学んだことは、これからゆっくり時間をかけて消化吸収して、今後の市民協働に向けて生かしていきたいと思います。

◇企画委員

前田 高幸 仙台市将監児童センター 主任

阿部 雅弘 仙台市新田児童館 児童厚生員

須藤 達也 仙台市荒巻マイスクール児童館 館長

前原 英明 仙台市北六番丁コミュニティ児童館 館長代理

分科会8

「中高生 voice~私たちが居たい場所~」

◇概要

宮城県内の中高生が"今"抱えている気持ちや思いを、アンケートや座談会を通して言葉として発信しました。東日本大震災から 10 年が経過し、その当時の中高生世代の子どもたちの姿と、コロナ禍の姿を比較しながら、私たちがこれから中高生たちとの関わりを行なっていくために、どのようにすればよいかを

グループワークを通して話し合いました。

◇分科会内容

1. 中高生 voice からみえる中高生の気持ち

Google フォームを活用して宮城県内の中高生~大学生等 769 名にアンケートを実施しました。ビッグデータを基に、中高生世代は『遊ぶ目的よりも勉強をする場所としての目的』として児童館を利用したい意見が最も多くありました。非対面で収集したデータと、対面での声の回答に大きな差はないものの、対面では特に、非対面で少数回答だった声をリアルに答えてくれる子どもたちの姿を多くみることができました。

児童館職員が抱いている中高生のニーズと実際のニーズの違いを、 職員に届けたいと思いました。

2, グループディスカッション

☆1 グルーフ

参加者それぞれが抱える中高生世代への想いを、アンケートや中高生リアルボイスを聞いたうえで、ディスカッションをしました。『あそびよりも勉強をしたい』という声が多かったことに対して、"私たちが思う勉強と、彼らが思う勉強が同じなのか違うのかを今後見ていく必要がある"という声や、地域塾や開館時間を延ばす取り組みをしている児童館などの事例を発表することで、彼らにとっての居心地の良い居場所にするためにはどうしたらよいのかを話し合いました。

☆2 グループ

「アンケートやリアルボイスを聞いていくうちに、施設側と

めて探っていきたいという声が出ていました。

中高生のニーズのずれを感じずにはいられなかった」「施設でイベントをしたいが、人が集まらないのが現状。中高生は、イベントを求めているのではなく、気分転換ができたり、乳幼児に気を使わないでおしゃべりできたりする居場所を求めていることにも気付かされた」との声が多くありました。中高生の居場所つくりと同時に、中高生が児童館で力を発揮する場面も大事にしていきたいという話題も出ました。「参加と参画」。児童館が小学生だけの居場所でないことを、SNS の活用や児童館職員がもっと視野を広









☆3 グループ

ほとんどの館が日々利用する中高生が少ない現状がある中、中高生の生の声を聞いて、イベント中心に考えていた職員側のニーズが中高生のニーズとずれていたことに皆気づかされました。ウェルカムな雰囲気づくりが大切であり、そのためには中高生向けの物品をそろえるなどの仕掛けをすること、中高生の参画の機会を設けること、また、何よりもいろいろな話ができる大人の存在があることが必要ではないかと話し合いました。自由来館中心で児童クラブがない館が 21 時まで開館し、中高生利用が多いとの話も大変参考になりました。小学生の頃から信頼関係を築き、中高生になっても気軽に立ち寄れる場所になるよう明日から頑張りたい、その勇気をもらったとの声が聞かれました。

☆4 グループ

すでに中高生をたくさん受け入れている児童館ではカフェや 卓球大会、お泊会など様々な仕掛けを用意しているという事例 があげられました。まだあまり中高生が来ていない児童館で は、開館時間を広げる取り組みが課題だという話題にもなり、 様々な創意工夫が必要だと感じました。また、アンケートやリ アルボイスを通じて勉強のニーズが多いことに驚いたこと、勉 強の場を整備することで通常の利用者を増やすことができるの



ではないかという話にもなりました。中高生専用の施設もできていますが、ただ、勉強の場を提供することが目的ではなく、小学生や多世代、地域との交流、繋がりをつくっていくことが児童館ならではという話をすることができました。

◇参加者数

27 名

◇担当者感想

コロナ禍になり、中高生世代の子どもたちとの関わりが 少なくなってしまった中、子どもを真ん中に、様々な児童館

職員が意見を出し合うことが自分自身にも刺激になりました。今回の分科会を通して、参加された一人ひとりの想いが中高生への支援につながる分科会になったと思います。様々な課題をアンケートや座談会から表面化された中高生世代から得た声を、どのように行政に届けていくのかを、今後につなげていく必要があると実感しました。

また、信頼できる児童館職員が居ることも中高生世代の子どもたちが居やすい居場所になるのではないでしょうか。分科会の最後に、全国の児童館職員に向けて児童館を利用している中高生世代からたくさんのメッセージと活動している写真を応援ムービーとして届けました。目頭を押さえて見てくださる方もおり、担当者としても嬉しく思いました。慣れないオンラインでの分科会でしたが、活発な意見交換ができました。ご参加いただきました皆さん、ありがとうございました!

◇企画委員

松浦 大輔 仙台市八本松児童館 館長

十屋 恵子 仙台市鶴が斤児童センター 館長

郷古 祐子 仙台市富沢児童館 館長

出雲 洋一 大和町もみじケ丘児童館 児童厚生員



分科会9「つながり作りのススメ」 ~まるごと児童館の事例報告とみんなで情報交換会~」

◇概要

この分科会は、初めに 2019 年に仙台市内で行われた「ドッカン! まるごと児童館サミット」の事例報告を行いました。100名以上の児童館職員が集まり、団体の壁を越え、がつながり合うことで、どのような変化があったのか。また、当時だけではなく現在の様子や地域とのつながりについても報告しました。その後、情報交換会を通した、参加者同士のつながり作り体験を行い、様々な地域や行政、子ども達、コロナ禍における活動について学び合いました。

◇分科会内容

1・「ドッカン!まるごと児童館サミット事例報告」

概要でも触れましたが、2019 年に仙台市内児童館連絡協議会が主催で行われた「ドッカン!まるごと児童館サミット」の事例報告を分科会のはじめに行いました。運営団体の壁を超え職員同士がつながり、実際にこの分科会の運営も当時の仲間達と運営している事を紹介しました。「お互いのスキルのアップにつながり、現場職員の意識向上になっている」と報告いたしました。

2・「みんなで情報交換会」

全国大会の醍醐味とも言える、交流・情報交換を WEB 上で行いました。北は北海道、南は沖縄県まで、まさに全国の方々と交流し「私達と子ども達の今、これから」について話し合われました。4 グループに分かれ少人数でのグループワークを計3回行い、ワーク中のキーワードをファシリテーターが付箋にまとめ、情報を視覚化し、毎回メインルームで全体共有も行われました。



◎グループワーク

事例発表から緊張感でスタート。4グループに分かれ、20分間の情報交換を計3回行い、毎回全員での全体共有を15分ほど行いました。「今、子ども達と何している?」という大きなテーマから始まり、自然と内容は「コロナ禍における現状」へとテーマは変わっていきました。コロナ禍での苦労や工夫、戸惑いなどが話題の中心になり、子どもの体力低下、経験不足、スタッフの子どもへの関わり合いの変化…。休館、中止、延期などのワードが飛び交いました。しかし「子ども達の遊びへの興味は変わっていない」というキーワードがでると、話題は一転し「これから何をしたいか」「コロナ禍でもできたこと」に変化し、実際に児童館の行事をWEB開催したという情報もありました。参加者が事例を発表し、共感を得ており、参加者同士で盛り上がるシーンもありました。

◎全体共有タイム

毎回グループワーク後にメインルームにて各グループワークか ら出たキーワードを付箋とホワイトボードにまとめ、実際に発言 された方にお話を伺いました。地域、行政によっての対応の違 い、運営方法の違いを知り、全国の児童館・児童クラブの現状を 学びました。全3回の全体共有は回を重ねる毎に内容が濃くなり 「子ども達に我慢をさせるのは私達も辛かった」など心の声も聞 く事ができました。



その他、運営としてカメラワークを工夫し会場専用のカメラを

準備しました。参加者の方にどのような雰囲気や空間で分科会が行われているか、またアクティブにカメ ラを稼働することにより

ホワイトボードを映し共有しやすいようにしました。

◇参加者数

13名

◇担当者感想

過去の全国大会交流会の雰囲気を少しでも味わって頂きたく、情報交換会はファシリテーターを置くも のの自由な発言をしていただきました。少人数ならではのフラットな雰囲気と和やかなムードでした。全 国の方々との、つながり作りを画面越しではありましたが体験できたと思います。

終始コロナ禍における現状の話題となりましたが、自分の中にある不安や不満などを少しでも吐き出せた のではないか?と思うと同時に「自分達だけじゃない」という安心も得たのではないかと思います。それ は参加者のみならず、この第9分科会の企画委員の皆も同じでした。

これまでもそうでしたが、今後の世の中の展開は誰も読めない中「非常に心強い仲間達が全国にいる」と 確信できる機会だったと思います。

さて、企画委員、実行委員のみなさんにも拍手を送らなければなりません。運営団体の違いや、価値観 の違いがあっても「未来の子ども達のために」を胸に同じ方向を向いて歩んできました。

突然の WEB 開催が決まった時も「やれることをやろう」「中止にするのは簡単。どうやったら開催でき るか考えよう」とパワフルに活動をしてくれました。度重なる変更や対応を強い連携で乗り越え、当日を 迎えられました。本番を迎えるまでのプロセスとこの企画委員の繋がりを今後も大切にし、また一歩前進 していこうとおもいます。

◇企画委員

大久保 潤 仙台市榴岡児童館 児童厚生員

伊藤 雅宣 仙台市西山児童館 館長

高橋 忠正 仙台市新田児童館 児童厚生員

阿部 瑞希 仙台市東宮城野マイスクール児童館 主任

高平 両士 仙台市虹の丘児童センター 主任

仙台市西山児童館 児童厚生員 遠藤美咲 山下 修羅

仙台市鹿野児童館 主任

條 寿子 仙台市芦の口児童館 児童厚生員



分科会10

「子どもとともにつくる児童館」

◇概要

東日本大震災後、企画・デザインの段階から子どもたちが考え、建設した石巻市子どもセンターらいつの事例から「子どもにとって一番よい児童館とはなにか?」を子ども参加の視点を大切に参加者みんなで考えました。らいつの事例報告及びオンライン館内ツアーの後、「子ども参加のもやもや・自分たちにできること」をテーマにグループワークを行い、参加者それぞれの想いや気づきを共有しました。

◇分科会内容

1, 事例報告

企画・デザインの段階から子どもたちが考え、建設した「石巻市子どもセンターらいつ」(宮城県)について、建設の経緯と活動内容を報告しました。

東日本大震災後、小学5年生から高校生までの子どもたちが復興に向けたまちづくりをめざし、こんなまちになったらいいと夢を描き、"夢のまちプラン"を作成しました。その"夢のまちプラン"をもとに企画・デザインされたのが石巻市子どもセンターらいつです。

開館後も、子どもの権利を柱に子ども参加で運営に取り組んでいます。今回は、子どもたちが地域の一員としてまちづくりに取り組む「子どもまちづくりクラブ」、利用方法やルールについて利用者の代表として話し合う「子ども会議」、運営や事業に遊びに来ている子どもたちの声を活かすために利用者ならだれでも参加できる「BIGVOICE」の3つの事業を中心に報告しました。最後にらいつが何よりも大切にしている「子どもが安心して自分らしくいられる環境づくり」「子どもが1人の主体としていられる環境づくり」がどういったものであるのかについても紹介しました。

まず、「子どもが安心して自分らしくいられる環境づくり」として、当たり前かもしれませんが、指導やアドバイスではなく、日頃から子どもの話を聴くことを意識すること、その上で、肯定的メッセージと I(アイ)メッセージを大切にすること、子どもとの適切な距離をつくるために「握手の関係」を保つことなどをお話ししました。また「子どもが1人の主体としていられる環境づくり」として、子どもの発達段階や興味に合わせた場づくりの必要性、子どもの主体性を尊重し、子どもができることは必要以上に手伝わない関わり、また子どものやってみたいを受け止めるためにスタッフ体制や関わりに「余白」を持つことの大切さもお話ししました。そして、なにより子どもの権利を柱に子ども参加で運営に取り組む児童館として、同じ1人の人として子どもたちと向き合うことについてもお話しさせていただきました。

事例紹介の後は、らいつ館内をオンラインツアーで紹介し、それぞれの部屋に込められた想いやデザインの工夫なども説明しました。





2, グループワーク

5~6 人のグループにわかれ、まず自己紹介と事例報告の感想を共有した後、普段の活動で子ども参加 実践を進める中での課題やもやもやを共有しました。また現場で取り組んでいる子ども参加実践について も共有しました。そして、らいつの事例を参考に、自身の現場で子ども参加の視点でどんなことに取り組 むことができるか、グループで意見交換を行いました。

「見守り重視になる環境」や「新型コロナの影響」など日々のもやもやとともに、子どもの主体的な取り組み(子ども運営委員会等)についての情報交換や、「継続の重要性」、「子ども参加&子ども主体→あそび」、「子ども参画」、「子どもがチャレンジできる環境」、「自ら発信できる「余白」を創る」、「あそびに薪をくべる」、「育成の課題」、「子どもにとって一番いい児童館とは?」といったテーマで意見交換が行われました。

また「できることから子ども参加で進めていこう」、「何より子どもが生き生きと輝けることを目指していこう」、「思いっきり遊んでいろいろな経験をしてほしい」、「スタッフもトライ&エラーで取り組んでいこう」といった子どもたちと向き合う上で、大切にしたい思いを共有する時間にもなりました。

◇参加者数

28 名

◇担当者感想

児童館と一言に言っても、それぞれの地域や子どもたちのニーズによって、何一つ同じものがないことが児童館の特徴だと思います。本分科会では、北は北海道、南は沖縄県、と本当にたくさんのところから「子ども参加」という視点で「子どもにとって一番よい児童館とはなにか?」を考える仲間が一緒に共通認識を持ち、意見交換ができました。

今回の全国児童館・児童クラブみやぎ大会は初めてのオンラインでの開催となりました。私自身、初めてオンラインで事例報告をさせていただきましたが、目の前に参加者がいない分ち



ゃんと声が届いているのか、自分の伝えたいことが伝わっているのかわからず緊張しましたが参加者のみなさんからたくさんの質問や言葉をいただき、ほっと胸をなでおろしました。

また、準備の段階から「子ども参加」の文脈でらいつが大切にしていることを言語化するのが難しく、改めて子どもと接する時に何を大切にしているのか考える機会となりました。

最後になりましたが、当日参加していただいたみなさま、ご参加いただきありがとうございました!ぜひ 一度らいつにお越しください。お待ちしております!

◇企画委員

吉川 恭平 石巻市子どもセンター 副館長

近藤 日和 石巻市子どもセンター 児童厚生員

佐藤 理香 仙台市西中田児童館 主任 伊藤 有紀 仙台市八木山児童館 主任

須藤 望美 仙台市桂児童センター 児童厚生員



分科会 1 1震災から 1 0年 今だから話せる あんなことこんなこと ~あの時児童館から見えたもの、そしてこれから出来ること~

◇概要

東日本大震災当時、児童厚生員として何ができるのか、疑問と葛藤に揺れ続けた日々でした。10年の時を経た今、当時を振り返り、体験したことや感じていたこと、今思うことを、当時の子どもたちや保護者と共にひもときます。自然災害が後を絶たない昨今、児童館ができること、児童館のあるべき姿を参加者のみなさんと考え、災害への備えにとどまらず、児童館の未来への一歩につながる事を期待します。

◇登壇者

(クロストーク)

- ・早坂 政子氏(仙台市向山児童館 館長)
- ・ 今野 佑香氏 (震災当時、仙台市田子児童館を利用)
- ・渡邊 由貴氏(名取市下増田児童センター 館長)

(未来に向けたメッセージ)

・岩本 直子氏(神戸市総合児童センター 運営課療育指導事業担当課長)



◇分科会内容

(クロストーク)

仙台市の3つの児童館から被害の状況や子どもや職員の様子を、当時の小学生からは児童館の大人の姿や印象についてお話いただきました。

子ども、地域に寄り添い続け、すりきれ傷つく自分や仲間の心に気づけなかったことや、適切にケアできていれば、もっと余裕のある支援ができたのでは、と振り返りました。子どもの嬉々として遊ぶ姿に罪悪感があったこと、遊びの再開は子どもたちの声がきっかけだったことなどが紹介されました。

当時の小学生だった登壇者からは、大人は大変そうに見えたが、児童館が楽しくて仕方がなかった、というお話がありました。

普段の顔の見える関係作りが地域との協働支援につながったことも紹介され、奇をてらわず、地域に根差した「児童館の当たり前」の積み上げこそが、厳しい現実の中でも未来に歩みだす時も大きな力になると気づきました。

(当時を振り返るインタビュー動画)

- ・児童館に行けば友達がいる、いつもの職員がいる、 常にあの遊びがあると思っていた。
- ・やりたいことは全部やらせてもらった。楽しい記憶しかない。
- ・自分が今まで知っている児童館で一番元気がなかった。 いつもの職員がいる安心と、いつもと違う姿の不安と気持ちが反比例した。
- ・自分にとって児童館は、「ほぼ家」、「城」、「別荘」。なんでもやってみて良いと思えた場所。 児童館がなければ自分は今、ハッピー野郎になっていなかった。

(グループトーク)

クロストークとビデオメッセージを受けて、4 つのグループで意見や感想を交換しました。

- ・日頃から地域交流を大切に「困った時は児童館」という存在にな れるようにしたいです。
- ・子どもからの『児童館は私にとって「ほぼ家」』という発言は、 これ以上ない嬉しい言葉だと思います。
- ・楽しく遊ばせることへの罪悪感があったという話は、今のコロナ禍に似ていると思います。
- ・普段の児童館としての関りが、つながりあって復興につながっていくと思います。
- ・児童館は日常を豊かにすること、当たり前のことを当たり前にすること、大人が心身共に健康でいることが大事だと思いました。

(未来に向けたメッセージ)

阪神淡路大震災当時、勤務していた児童館は併設されていた施設と共に避難所になりました。プレーパークの方々が子どもの遊び場を作ってくれましたが、そこが閉鎖になる時、地域の方々が「児童館を開けよう」と声をあげてくれました。「児童館の当たり前」を心掛けてきたことが地域の方々に届いていたと実感した瞬間でした。神戸では震災直後から親子向け、職員向け等様々な防災プログラムを実施しています。楽しいプログラムを通しての意識付け、後継者や継承者の育成を心掛け、震災を忘れない、伝えることを大切にしています。コロナ禍の今、児童館はいつもの場所、仲間、信頼できる職員、安心して過ごせる居場所としての機能を強く求められていると思います。「児童館なら大丈夫」と思ってもらえたらと願っています。子どものケアと同時に職員のケアも忘れないでほしいです。職員も被災者であり、悲しく辛い思いをしています。児童館に居る人、来る人すべての人が笑顔でいられるような場所を目指していければと思います。

◇参加者数 20名

◇担当者感想

今だからこそ話せることが、児童館運営、子どもたちを守る環境づくりに役立てるのでは、と準備を進めてきましたが、今初めて知る過酷なエピソードもあり、震災の爪痕の大きさを思い知りました。

子どもたちからのメッセージは、当時必死に児童館運営に取り組んできた職員にとって、これ以上ない 喜びで、子どもたちに寄り添えていたと実感できました。

今回の分科会を通して、児童館の機能や役割を理解し、「児童館の当たり前」を続けることが大切だと確認でき、これを共有できた「仲間がいる心強さ」と「児童館はやっぱり素晴らしい!」を強く感じました。参加してくださった皆様、本当にありがとうございました。

◇企画委員

久保 允 名取市増田児童センター 館長

齊藤 寿一郎 名取市那智が丘児童センター 館長

髙野 怜美 名取市那智が丘児童センター 児童厚生員

渡邊 由貴 名取市下増田児童センター 館長

朴澤 愛美 名取市下増田児童センター 児童厚生員

横山 奈々 名取市下増田児童センター 児童厚生員

太田 ふき子 岩沼市北児童センター 館長





分科会 12

「あそびプロジェク X~あそびの力は無限大」

◇概要

異年齢の子どもたちが集う児童館・児童クラブは「あそび」の最適な場です。 子どもの成長・発達にとってなくてはならない遊びの力は無限大です。しかし、 コロナの影響もあり、子どもたちが従来のようには遊べない、様々な変化が起き ています。遊びの価値を知り、保障する児童館・児童クラブの仲間たちととも



に、"遊び"の意義を再確認し、全国の仲間と社会発信できる遊びをクリエイトしました。

◇分科会内容

「遊びで変われる人がいる あなたも「遊び」で、きっと変われる。 全国のなかまと「遊び」を考えてみましょう。わくわく♪どきどきま もなく始まります!」

児童館・児童クラブの子どもたちや職員の笑顔写真と、遊びの大切 さを伝える言葉をつなげたオープニング動画で始まりました。

初めて出会った全国の仲間たちとアイスブレイクで気持ちをリラックスさせます。「♪や~きゅう~、す~るなら、こういうぐあいにしやしゃんせ~~」さぁ、心も準備は万端です。



この分科会では、7のグループに分かれ、自分が子どもの時の遊びは何があったか、今の子どもたちの中で流行っている遊びは何かなど、遊びのキーワード出しを行い、遊びを発展させ7つのオリジナリティ溢れる遊びができあがりました。

■グループ1「人狼ドッジ」

遊びの中で起こる、子ども同士の声掛けや、一方的な勝ち負けを決めるような流れや雰囲気を、もっと 笑いある遊びに展開すべく、ルールの中に『運の要素』や『思いやりの要素』をアレンジとして取り入れ、 思いがけない発見や面白さの展開にしたいと思いスーパードッジと王様ドッジおよび人狼ゲームの要素を 組み込みました。

■グループ2「復活ボンバー ドッチ?ドッチ!! 37564」

今、自分と周りの状況を判断することができる力や、今後子ども主体で遊び方を工夫することができる力を養うこと、友達と一緒に遊ぶなかで、嬉しい、悔しいなどの多様な感情体験を味わい、友達との関わりを深めていく遊びを考えました。後日実践をした子どもの感想です。・ドッジボールより楽しい! また明日もやりたい! ・復活できるのが楽しい!・ルールをみんなで考えたい!



■グループ3「ピンオセ」

台とコマを使ってコマの落とし合いをする遊びです。得意、不得意に左右されず運を味方につけて楽しむことができるので異年齢でも活動ができます。遊び込む中でルールや道具をアレンジ可能で、遊びを作り上げる過程や独自のルール作成を楽しむことができる自由性の高い遊びを考えました。

■グループ4「みんなで飛ばそう イカした紙飛行機」

まずは紙飛行機を飛ばして上からぶらさげたフラフープに入れる遊びを行います。子どもの人数が増え

てきたら子どもが主体となるように違う遊びを創り、準備、運営までを子どもが行います。人数の増減によってブースの増減 も行い、少人数から大人数まで子どもの意見を取り入れながら 異年齢でも継続的に遊び続けることのできる遊びの形です。

■グループ5「かたき(チーカタ)|

基本的にドッジボールのルールを用いますが、始める前に復 活ルールの話し合いを行います。年齢や性別、体力や力量を考



慮し思いやりの気持ちが育つような声掛けや配慮をしながら子どもたちと話し合い決めていきます。大事なことは、あくまでも子どもの自主性を尊重するために予防策をはじめから提示しないこと、子どもの力を信じ安全面に関することだけにこだわることです。

■グループ6「ドッジボーリング」

誰でもすぐに遊べるように馴染みのある「ドッジボール」のルールを取りいれますが、投げるのではなく転がすので、空間や場所にこだわらず遊べます。また転がすことにより、従来の威力重視のものではなく、女子や非アクティブ層また異年齢でも楽しめる遊びにしました。

■グループ 7「手作りカード de トレーディングゲーム」

カードを作り、対戦相手を探し、じゃんけんやあっちむいてホイなど、何かひとつ一緒にできるゲームを決め勝負します。対戦に勝った人は負けた人からカードを1枚もらいます。さらにそのカードを使ってお店屋さんごっこやオンライントレード大会などアレンジ遊びができます。カードを作る・バトルのゲームを決める・集めたカードの活用方法を考えるなど、全ての段階において、子どもたちが主体的に参加することができる遊びです。

◇参加者数

37 名

◇担当者感想

短い時間ではありましたが、さすが児童厚生員です。子どもたちと日々向き合っている成果がでました。 コロナ禍で満足な遊びができず、子どもの成長について考えさせられる日々ですが、そんな制限がある中でも私たちは歩みを止めません。子どもたちと向き合い、遊びと向き合い、これからも子どもたちの心と身体の栄養である「遊び」の力を信じ、「遊び」の効果や価値を世の中に発信し続けます。

◇企画委員

上木 秀美 愛媛県 / えひめこどもの城

井垣 利朗 東京都 / 八王子市立川口児童館

村田 弘孝 福井県 / 福井県児童科学館 エンゼルランドふくい

菅 智美 岩手県 / 岩手県立児童館 いわて子どもの森

向井 真規子 東京都 / 国立市矢川児童館

出口 貴史 東京都 / 品川区大原児童センター

荒木 良徳 福井県 / 福井県こども家族館 仲川 恵梨 石川県 / 金沢市立瓢箪児童館

広瀬 照代 石川県 / 金沢市立瓢箪児童館

山下 洋一郎 愛媛県 / 松山市中央児童センター

尾松 佳織 香川県 / さぬきこどもの国

林 早貴子 香川県 / 造田児童館



| 分科会 13 「児童館を考える 5 0 のはなし ~ それぞれのストーリー~ 」

◇概要

参加者の皆さん自身や児童館・児童クラブの日々の活動の中にあるような、ちょっとうれしいこと、悩んだり迷ったりしていること、イラっとしたことなどテーマにした、"答え"も"結論"もない分科会です。何気ない出来事を語り合う中で、他の参加者を勇気づけたり共感を得たり、あらためて自分自身がその素敵さに気がついたり。"共感"と"つながり"をもとに、児童館・児童クラブや私たち職員のあり方やその魅力について考えました。

◇分科会内容

1. アイスブレイクゲーム

「あたまにOがつくモノ!」のゲームをしました。1回戦目は働、2回戦目は働が一文字目につくモノを、10 秒で探してくるという単純な内容です。画面には、いろいろな種類の"アイス"と"赤いもの"、そして"ぬりえ"など、児童館・児童クラブ職員らしさがあふれるユニークなモノがたくさん集まりました。見つけることができたら、手元の「50 音表」の"あ"と"ぬ"に印をつけます。カラダとアタマを動かしたら、緊張がほぐれていきました。

2. 50音表 de エピソードトーク

児童館・児童クラブの日々の活動の中にある小さなエピソードを、"50 音"をきっかけにしながら語り合いました。まずは、運営メンバーによる実演。「電話相談の話 = ⑦」「焼き芋のはなし = ⑩」のように、短いタイトルをつけて話し始めます。その後、同じルールで、ブレイクアウトルームに分かれて 20 分間語り合いました。1ルーム4人ほどで、思いついた方から順々にエピソードを話します。日常の中にあるさりげないエピソードをルーム内で共有し、メンバー同士で「あるある!」「わかる~!!」などと共感し合いながら進めていきました。集まったエピソードの数 = 50 音表の文字が消えている数となり、それが『児童館を考える 50 のはなし』につながっていきます。エピソードは、『生き物』に関するものが多く出されました。昆虫のこと、そしてカメに関するものがなんと1ルームで3つも!20 分語った後は、全体で印象的なエピソードや感想を共有し、児童館あるある!満載の時間になりました。

3. 川柳 de エピソードトーク

前半で出たエピソードをさらに共有しながら、テーマ別に児童館・児童クラブについて語り合います。テーマは「こども/あそび/大人(保護者、職員)/コロナ/いきもの」の5つから各々1つ選びます。そして語り合う前にエピソードをギュッと凝縮するため、『川柳』に挑戦しました!自分の伝えたいことを、5・7・5(字足らず、字余りも OK)で詠んでみました。



川柳は力作揃いで、感嘆し、共感しきり。やはり、児童館・児童クラブ職員の持つ遊び心と、なんでも楽しむ力はすごい!

「あたったよ あたってないよ わからない」「「めっちゃヒマ あそぶ人いーひん」悩んでます…」「誰

よりも地域をつなげる子どもたち」「先生と 呼んでた子ども 今職員」「あぁコロナ そろそろやめてもいい頃な」「かぶと虫 オス2匹なので 子孫なし」

4. まとめ

分科会をきっかけにして、自分自身の日常を振り返りました。一つ一つのエピソードは、つい当たり前の風景になってしまいがちです。しかし、自分にとっては当たり前と思っていたことも、誰かに話したり聴いてもらったりすることで、あらためてその魅力や大切さに気付くことができました。



◇参加者の声

- ・様々なお話を聴く事で日々の子ども達の関わりを再度確認する事ができた事や気づきにつながる事ができました。時間が足りないくらい~と感じるところもありましたが、このような形で「つながり」感を感じることができました。
- ・皆さんしっかりと語れるエピソードを持っていて、誰もが楽しそうに話される姿は、こちらまで嬉しく、笑顔になれました。また単純に、毎日児童館ってこんなにもいろんなことがあり、それぞれに感動したり、面白がったり…児童館ってやっぱりいいな~と思いました。



・オンライン研修では、誰がどのように話を進めてよいか迷う場面が発生しやすいと思います。あいうえ お表を用いることで、それぞれが平等に話に加われている感じがしました。

◇参加者数 31 名

◇担当者感想

全国各地から集まった運営メンバーが、オンラインでも"共感"と"つながり"を得られる内容を!との思いで、オンラインで打ち合わせを重ねました。日常の中にある何気ないエピソードも、誰かに話したり聴いてもらったりすることで、あらためてその魅力や大切さに気がついていただけたなら、私たちも嬉しく思います。そして、皆さんの表情を見ながら、うれしいことはもちろんのこと、モヤモヤしたりイラっとしたり…というエピソードでさえも楽しみながら毎日を過ごしていきたいと再実感しました。ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。

◇企画委員

全国児童厚生員研究協議会有志チーム

木戸 玲子 京都府/京都市修徳児童館 髙阪 麻子 愛知県/東郷町兵庫児童館

園部 信大 香川県/坂出市まきば児童センター

長﨑 由紀 岩手県/岩手県立児童館いわて子どもの森

長谷川 陽子 三重県/四日市市こども子育て交流プラザ

山岸 拓朗 石川県/金沢市立三和児童館



◇ 全国発議

全国児童厚生員研究協議会では、これまで、全国大会の機会を通じて、【子ども】や【児童館】を取り巻く現状や課題、社会情勢などをふまえ、私たち児童館が目指す方向や、これからに向けての決意を、「全国発議」という形で、全国の児童館・児童クラブ関係者、そして社会に発信してきました。私たちが本大会に集った証として、そしてそれぞれの明日からの確実な一歩を進めていくため、今大会では、皆さんにとっても、道しるべとなるようなメッセージを、との思いを込めて、『3つの大事』を発議いたします。

全国児童厚生員研究協議会

全国発議

全国児童館・児童クラブみやぎ大会にて

~ 3つの大事~

東日本大震災から10年。 各地を襲う自然災害と新型コロナウイルス感染症。 経験したことのない状況の中でも、 私たちは常に子どもの最善の利益を求め、考え、 ともに歩み続けます。

子どもたちの為に、 そして児童館・児童クラブのこれからの為に、

みんなで力を合わせていきましょう。



まずは児童館が機能することが大事

児童館は、子どもが置かれている環境や状況に関わりなく 自由に過ごすことができる子どものための拠点です。 遊びと生活の場である児童館は、子どもが安定した日常生 活を送るために必要な場です。私たち児童厚生員は、いつ 何時(なんどき)も継続的に児童館を機能させるために、 準備と計画を怠りません。

やっぱりつながりが大事

つながりは、子どもにとっても、私たちにとっても元気と 勇気の源です。児童館・放課後児童クラブは、つながりが 生む生きる力を大切にしています。互いに認め合い、許し 合い、励まし合っていけるよう、どんな状況でも集うこと をあきらめません。

やっぱり遊びは大事

遊びは、子どもにとって、生きること、そして生活のすべてです。児童館・放課後児童クラブは、遊びの力を信じています。子どもに寄り添い、遊びを創造し、子どもの遊ぶ権利を保障します。

令和3年11月7日 全国児童厚生員研究協議会

◇ エンディング

司会: 尾木 善宣(富谷市日吉台小学校児童クラブ 施設長)

宮崎 雅行(仙台市榴岡児童館 児童厚生員)

☆みやぎ大会振り返り



☆各会場から一言



今だから必要な、大切なあ そびを確認できました! 7 つの遊びができました! 全児研●第 12 分科会 メインテーマの『つながる』。

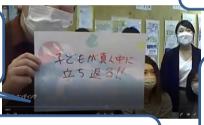
過去から今に、今から未来に、受け継いだものを、 新しいものを、人と人が、子どもと子どもが、子ど もと大人が、子どもと地域が、大人と大人が、地域 が、行政が、他団体が、教育と福祉が、仲間同士 が、分科会が…etc…全てがつながっています!子 どもを中心に考えるとつながって行き易いのではな いでしょうか。今日つながった皆さんが、明日から の活動につなげてくれたらと思います!

※本当は全ての分科会に聴きたかったけど、超濃厚な1日だった事を考慮し、数を限らせていただきましたm()m

たくさんの、皆が共感できる児童 館のエピソードが集まりました! 全児研●第 13 分科会



常に子どもの声に耳を傾ける事の大切さを再認識! 子どもがまんなかに立ち返る! 石巻会場●第10分科会



阿南専門官の講話を頂きました! たくさんの学びがありました! (フリップの絵がうますぎる。) 仙台会場●第5分科会 震災当時のスタッフ、児童、保護者のインタビュービデオを見てグループトークをしました。 間違いなく仲間が居る!! 名取会場●第11分科会 コミュニティスクールに ついて学びました。 改めて、私たちは子ども たちに活かされていると 実感しました! 仙台会場●第4分科会





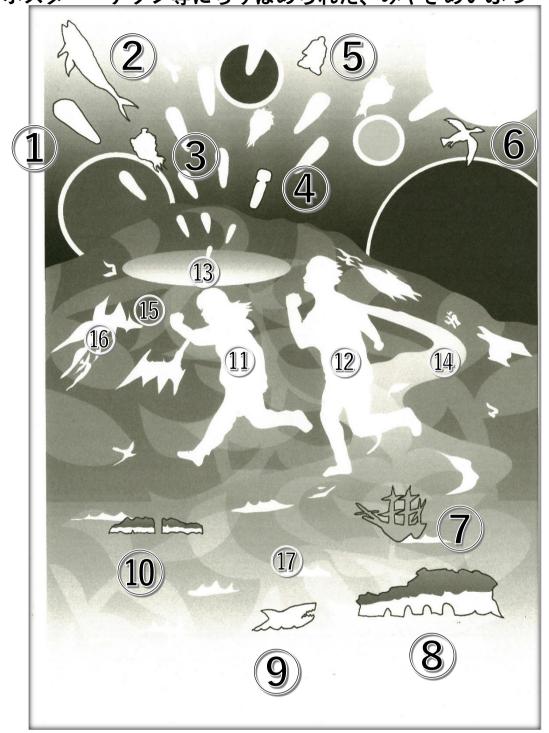




☆エンドロール ~閉会~

作成 映像 吉川 恭平(石巻市子どもセンター 副館長) 音楽 大久保 潤(仙台市榴岡児童館 児童厚生員)

◇~ポスター・チラシ等にちりばめられた、みやぎめいぶつ~◇



みんなはいくつみつけられたかな?さぁ、こたえあわせだ!※気になるものがありましたら調べてみてください。面白いですよ。 ①ささかまぼこ。漢字で書くと笹蒲鉾 ②くじら ③ホヤ ④こけし ⑤仙台四郎 ⑥白鳥 ⑦サンファン・バウティスタ号 ⑧日本三景松島の離島の一つ。鐘島 ⑨サメ(フカ) ⑩日本三景松島の離島の一つ。震災で二つに割れてしまったという島 ⑪こどもがまんなかの子ども。実は児童館職員をトレースしたもの ⑫こどもがまんなかの子ども。こっちも児童館職員 ⑬蔵王の御釜 ⑭川。県内には様々な川があります。自分の好きな川を思い浮かべてください。私は七北田川 ⑮山。好きな山を思い浮かべてください。私は泉ヶ岳 ⑯宮城はもちろん雪も降ります。でも昔より少なくなったなぁ… ⑪太平洋。日本有数の港もいっぱいありますあと、空の円と色は、伊達政宗の伊達な陣羽織のモチーフ。山と海には宮城の花『萩』がちりばめられているよ。

あと、空の円と色は、伊達政宗の伊達な陣羽織のモチーフ。山と海には宮城の花『萩』がちりばめられているよ。 よーく見ると「コ」「ド」「モ」「ガ」「マ」「ン」「ナ」「カ」の文字も。 みっけ?

◇ ご支援をいただいた自治体

・石巻市

・塩釜市

• 気仙沼市

・白石市

・名取市

・角田市

・多賀城市

・岩沼市

・登米市

・栗原市

・東松島市

・大崎市

・富谷市

・蔵王市

・七ヶ宿町

• 大河原町

・村田町

・柴田町

•川崎町

・丸森町

・亘理町

・山元町

・松島町

・七ヶ浜町

・利府町

・大和町

・大郷町

・大衡村

・色麻町

・加美町

・涌谷町

・美里町

・女川町

・南三陸町

◇ 協賛をいただいた皆様

- ・ライオンズクラブ国際協会332-C地区 様
- · 株式会社仙台銀行 様
- ・株式会社まるしんシステム 様
- ・株式会社同仁社 様
- ·株式会社建設新聞社 様
- ・株式会社赤井沢 様
- ・株式会社井上建築工房 様
- · Chubb損害保険株式会社 様
- ・有限会社渡辺板金店 様
- ・学校法人曽根学園 様
- · 東中田地区社会福祉協議会 様
- ・仙台発そなえゲーム輪島 様

- ・名鉄観光サービス株式会社 仙台支店 様
- · 松栄不動産株式会社 様
- ・株式会社サイコー 様
- · 株式会社協栄電設 様
- ・榴岡天満宮 様
- ・株式会社アスム療育・研修センター 様
- · 株式会社白木屋 様
- ・有限会社佐々木保険事務所 様
- •一般社団法人泉青年会議所 様
- ・学校法人ろりぽっぷ学園 様
- ・株式会社ワールドトラベル 様
- ・特定非営利活動法人子育て応援団ゆうわ 様
- ・地域応援おやじネットかにっことうちゃんS'様・認定NPO法人こども∞感ぱに一様
- ・地域福祉ネット19団体ほっとネットin東中田 様 ・特定非営利活動法人虹の架け橋 様
- ・関西・関東企業ネット由本さんとゆかいな仲間たち 様
- ・特定非営利活動法人FOR YOUにこにこの家 様
- ・ いしのまき子どもセンターコンソーシアム 様
- ・特定非営利活動法人せんだい杜の子ども劇場 様
- ・特定非営利活動法人仙台YMCAファミリーセンター 様

信頼の世界品質、チャブ保険。

$\mathsf{C}\mathsf{H}\mathsf{U}\mathsf{B}\mathsf{B}^{\circ}$

www.chubb.com/jp

Chubb 損害保険株式会社

〒984-0831

宮城県仙台市若林区沖野字高野南 197-1 Tel.022-285-5212 fax.022-285-9198

◆ろりぽっぷクラブ (放課後児童クラブ) ◆ 保育時間 7:15~19:45 バス送迎あり







のいえ保育園(の)

子どもが安心して健やかに育つ環境の保証「子育ち支援」と同時に、親が子どもと育っていける「親育ち支援」を目指した活動を展開していきます。

白石みのり保育園 🕮

〒981-8003

宮城県仙台市泉区南光台3-21-22

虹の架け橋特定非営利活動法人虹の架け橋

代表理事 石戸 祥也



~家族の笑顔のための住まいづくり~ 近くの木と職人でつくる家づくりグループ

₩ 株式会社 井上建築工房

仙台市太白区茂庭字町北31番1 TEL 022-281-5202 FAX 022-281-5203 E-mail info@inouekk.com 新生活のスタートから、有効な土地活用まで、 豊富な経験と迅速な対応でサポートします。

松栄不動産株式会社

協作市等級例(相同 1 JT1 2 番8号 Tel 022-295-5080 Fax 022-256-3023 ※減緊知事 (15) 第 510 号 http://www.shori-fudosan.co.jp/

宮城県児童館

・放課後児童クラブ連絡協議会

〒 981-1217

宮城県名取市美田園2丁目1-4 所在地

電話HP 022-384-8021

http://miyagi-kenjiren.main.jp/







【本部】

〒981-1247 宮城県名取市みどり台三丁目19-4

| 古城宗石以前かとり日三月日19-4 | (仙台事務局] | 〒 98 4-08 1 6 | 宮城県仙台市若林区河原町2-5-4 0 クレセール河原町 1 F | FEL 0 2 2 - 3 9 7 - 7 2 3 1 FAX 0 2 2 - 3 9 HP http://natori-hiyoko.com 022-397-7631



SENMORI

すべての子どもたちに 笑顔と心豊かな 子ども時代を!

特定非営和活動法人



〒981-3133

仙台市泉区泉中央 1-40-7 アルティマ 101 TEL/FAX 022-375-3548

Mail:office@senmori.org http://senmori.org/

NPO みやぎ・せんだい子どもの丘は、子どもの健全育成を目指します。

NPO みやぎ・せんだい 学どもの丘



〒981-0931 宮城県仙台市青葉区北山一丁目 5-22

TEL/FAX 022-343-8880

URL https://kodomonooka.com/

(公財) 仙台ひと・まち交流財団



仙台市内80館の児童館・児童センター運営のほか、 児童厚生員の"想い"と"パワー"をカタチにした

「児童館フェスタ」や「児童館フォーラム」

など、全市・全県規模の事業を継続的に 開催し、児童館を支援してまいります。



NPO 法人 FOR YOU にこにこの家

シニアがシニアを支えるまちに

子育で・子育ち応援社会に

誰にも優しいまちに



*シニア応援事業 *地域交流事業

*児童館事業 *防災・減災事業 *心の輪事業

〒981-1102 仙台市太白区袋原 3-16-51 TEL/FAX 022-241-0858 HP https://nikoniko-house.jimdo.com

子どもがまんなか

いしのまき 子どもセンタ コンソーシアム

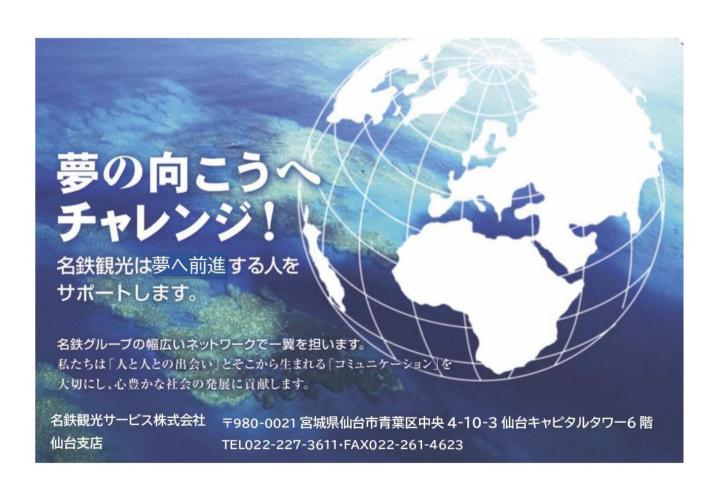


みつかる。つながる。よくなっていく。

NPO法人 仙台YMCAファミリーセンター

> 宮城県仙台市青葉区立町9番7号 022-222-7533







We Serve

ライオンズクラブ国際協会332-C地区

2021-2022年度

地区ガパナー加藤 俊治幹事藤谷 廣司会計伏見 不二雄

「豊かなる人生に WeServe」

ライオンズクラブは青少年健全育成に取り組んでいます!!

仙台 LC	柴田 LC	塩釜中央 LC	古川古城 LC
仙台エコーLC	大河原 LC	富谷 LC	栗原若柳 LC
仙台五城 LC	丸森 LC	石巻 LC	古川中央 LC
仙台宮城野 LC	山元 LC	東松島 LC	志波姫 LC
仙台いずみ LC	蔵王 LC	石巻中央 LC	築館 LC
仙台東 LC	川崎 LC	女川 LC	加美 LC
仙台青雲 LC	白石益岡 LC	石巻日和 LC	仙台こだま支部
仙台泉中央 LC	村田 LC	石巻桃生 LC	仙台結支部
仙台青葉 LC	七ヶ宿 LC	石巻河南 LC	仙台わかば支部
仙台広瀬 LC	塩釜 LC	石巻めぐみ野 LC	蔵王サクラ支部
仙台萩 LC	多賀城 LC	南三陸志津川 LC	石巻アゼリア支部
仙台杜 LC	七ケ浜 LC	気仙沼 LC	
仙台シティ LC	仙台高砂 LC	佐沼 LC	宮城学院女子大学
名取 LC	仙台いわきり LC	中田 LC	さくらレオクラブ
亘理 LC	仙台ニューポート LC	古川 LC	東北学院大学
岩沼 LC	大和エコーLC	涌谷 LC	つばさレオクラブ

全国児童館・児童クラブみやぎ大会 関係者名簿

【実行委員会】

	役職名	氏名	所 属
1	委員長	齋藤 勇介	特定非営利活動法人子育て応援団ゆうわ 理事長 宮城県児童館・放課後児童クラブ連絡協議会 会長
2	副委員長	長﨑 由紀	全国児童厚生員研究協議会 理事
3	副委員長	屶網 良	一般財団法人児童健全育成推進財団 事業部課長
4	委員	長谷川 素子	宮城県保健福祉部子育て社会推進課 課長
5	委員	三井 悦弘	仙台市子供未来局子供育成部児童クラブ事業推進課 課長
6	委員	大関 裕史	仙台市子供未来局子供育成部児童クラブ事業推進課 課長
7	委員	稲邊 康宏	宮城県社会福祉協議会震災復興·地域福祉部 地域福祉課 課長補佐
8	委員	渡辺 由紀子	宮城県社会福祉協議会震災復興·地域福祉部 地域福祉課地域福祉推進係 係長
9	委員	小岩 孝子	特定非営利活動法人 FOR YOU にこにこの家 理事長 宮城県児童館・放課後児童クラブ連絡協議会副会長
1 0	委員	荒木 裕美	いしのまき子どもセンターコンソーシアム 代表 宮城県児童館・放課後児童クラブ連絡協議会 理事
1 1	委員	尾木 善宣	特定非営利活動法人仙台 YMCA ファミリーセンター 法人統括 / 富谷市日吉台小学校児童クラブ施設長
1 2	委員	宮崎雅行	仙台市榴岡児童館 児童厚生員
1 3	監事	橋本 潤子	公認会計士 特定非営利活動法人せんだい杜の子ども劇場 理事
1 4	担当	引地 富友子	宮城県保健福祉部子育て社会推進課 主事
1 5	担当	山越 崇史	仙台市子供未来局子供育成部児童クラブ事業推進課 推進係長
1 6	担当	久本 久	仙台市子供未来局子供育成部児童クラブ事業推進課 推進係長

【企画運営委員会】

	担当	氏名	所 属
1		小岩 孝子	実行委員
2	企画・	斎藤 純子	特定非営利活動法人せんだい杜の子ども劇場 代表 宮城県児童館・放課後児童クラブ連絡協議会 理事
3	運営部	尾木善宣	実行委員
4		宮崎雅行	実行委員
5		荒木 裕美	実行委員
6	広報· 記録部	渡辺 由紀子	実行委員
7		稲邊 康宏	実行委員

【企画委員会】

	担当	氏名	所 属
1	司会進行	若生 哲雄	色麻町学童保育施設
2		吉澤 みはる	
3		佐藤 尚枝	特定非営利活動法人せんだい杜の子ども劇場
4		鈴木 舞	
5		岩渕優	利府町西部児童館
6	受付・フロア	新沼 美佐子	仙台市上野山児童館
7		畑中 麻由子	仙台市東六番丁児童館
8		及川 史	仙台ひと・まち交流財団
9		粕加屋 純子	亘理町立荒浜児童館
1 0		佐藤 美津子	亘理町中央児童センター
1 1	-1.15	南條 智重	
12	映像メッセージ& シンポジウム	岡 智美	仙台市東四郎丸児童館
1 3		堀口 祐子	
1 4		川端 晶子	仙台市小松島児童館
1 5	- - 子育て支援室	大久保 佳奈子	仙台市新田児童館
1 6	からの動画配信	市瀬 美香	仙台市住吉台児童センター
17		阿部 早希子	仙台市荒町児童館
18		松木 咲樹	仙台市原町児童館

【企画委員会 前ページからの続き】

19 20大野 悠人 吾妻 詩帆里白石市第二児童館21 22第1分科会 "防災・減災"八島 礼子 中村 恵美 角田市角田児童センター 阿部 香織 人泉 広奈 仙台市田子児童館 大泉 広奈 仙台市将監児童館 大友 育美 山元町児童館 大友 育美 山元町児童館 大友 育美 中藤 牧子 山台市燕沢児童館 大崎市古川中央児童館 木川田 恵 永浜 賢道	
20 まま 詩帆里 21 第1分科会 22 小島 礼子 仙台市東四郎丸児童館 中村 恵美 角田市角田児童センター 阿部 香織 仙台市田子児童館 大泉 広奈 仙台市将監児童館 25 第2分科会 26 第2分科会 27 社会教育と児童館 28 伊藤 牧子 仙台市燕沢児童館 本川田 恵 大崎市古川中央児童館	
22 "防災・減災" 中村 恵美 角田市角田児童センター 23 阿部 香織 仙台市田子児童館 24 大泉 広奈 仙台市将監児童館 25 堀田井 裕子 仙台市片平児童館 26 "社会教育と児童館" 27 伊藤 牧子 仙台市燕沢児童館 28 木川田 恵 大崎市古川中央児童館	
23 阿部 香織 仙台市田子児童館 24 大泉 広奈 仙台市将監児童館 25 第2分科会 "社会教育と児童館" 27 大友 育美 山元町児童館 28 伊藤 牧子 仙台市燕沢児童館 本村 忠美 月田市月出児童館 大泉 広奈 仙台市片平児童館 大友 育美 山元町児童館 伊藤 牧子 仙台市燕沢児童館 木川田 恵 大崎市古川中央児童館	
24大泉 広奈仙台市将監児童館25第2分科会堀田井 裕子仙台市片平児童館26"社会教育と児童館・ 児童クラブ"大友 育美山元町児童館28伊藤 牧子仙台市燕沢児童館本川田 恵大崎市古川中央児童館	
25 第2分科会 26 第2分科会 27 社会教育と児童館・児童クラブ" 28 一次の表別を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現した。 28 本川田恵 大友育美 山元町児童館 一次の表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現した。 一次の表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表	
第2分科会26"社会教育と児童大友 育美山元町児童館27健・児童クラブ"伊藤 牧子仙台市燕沢児童館28木川田 恵大崎市古川中央児童館	
26 "社会教育と児童 人及 育美 山元可児童館 27 館・児童クラブ" 伊藤 牧子 仙台市燕沢児童館 28 木川田 恵 大崎市古川中央児童館	
27 館・児童クラブ" 伊藤 牧子 仙台市燕沢児童館 28 木川田 恵 大崎市古川中央児童館	
28 木川田 恵 大崎市古川中央児童館	
29 永浜 賢道 利府町西部児童館	
30 柏木 悟司 大和町吉岡児童館	
3 1 第3分科会 金谷 三平 富谷市富ヶ丘小学校児童クラブ	
32 "アソビノカタチ" 石森 ももこ 富谷市成田小学校児童クラブ	
33 羽渕 あゆみ 大衡村大衡児童館	
34 今野 恭子 松島町児童館	
35 第4分科会 瀬戸 理音 特定非営利活動法人 ワーカーズコープ	
36 "学校と地域と児 橋本 由美 名取市増田西児童センター	
37 童館・児童クラブ" 大迫 陽子 岩沼市西児童センター	
38 田中 悠也 仙台市東宮城野マイスクール児童館	
39 平山 乾悦 特定非営利活動法人 みやぎ・仙台子どもの丘	
40 第5分科会 福原 孝 富谷市富谷小学校児童クラブ	
4 1 "児童館の今, 齋藤 俊介 仙台市長町児童館	
42 未来!" 渡辺 正史 蔵王町永野児童館	
43 岩松 みゆき 仙台市長命ヶ丘児童センター	
44 本郷 由貴 富谷市日吉台小学校児童クラブ	
45 南條 智重 仙台市東四郎丸児童館	
46 羽賀 崇子 仙台市岩切児童館	
47 八巻 真裕美 仙台市鶴ケ谷東マイスクール児童館	
第6分科会 金野 稔子 名取市館腰児童センター ************************************	
49 猪俣 いよな 岩沼市東児童館	
50 加藤 真依 仙台市西多賀児童館	
5 1 橋口 千穂 仙台市虹の丘児童センター	
52 前田 高幸 仙台市将監児童センター	
第7分科会 阿部 雅弘 仙台市新田児童館 である は日本館 はいる 古本 は 日本館 による に は は なっぱ に こうしゅ に 日本館 による に は は なっぱ に は は なっぱ に は は なっぱ に は は なっぱ に は は は は は は は は は は は は は は は は は は	
5 4 児童館" 須藤 達也 仙台市荒巻マイスクール児童館	
55 前原 英明 仙台市北六番丁コミュニティ児童館	

【企画委員会 前ページからの続き】

### 大輔	【企四安	貝云 削べーンがら		
## 1	5 6		松浦 大輔	仙台市八本松児童館
## 1	5 7	午0八원소	土屋 恵子	仙台市鶴が丘児童センター
日雲 洋一 大和町もみじケ丘児童館	5 8		郷古 祐子	仙台市富沢児童館
5 1 1 1 2 2 2 3 3 4 4 4 7 2 3 4 4 7 3 4 4 5 3 4 4 5 5 5 5 6 6 6 6 6 6	5 9		出雲 洋一	大和町もみじヶ丘児童館
6 2 第9分科会 伊藤 雅宣 仙台市新田児童館 6 4 "つながり作りのススメ" 高橋 忠正 仙台市新田児童館 6 6 6 7 6 6 6 7 6 6 8 6 7 7 7 7 0 7 7 1 7 2 7 2 7 2 7 2 7 2 7 3 7 3 7 3 7 4 4 7 7 8 7 8 7 9 8 0 8 1 8 2 8 3 8 4 8 5 8 6 8 8 8 9 9 0 9 0 9 1 第10分科会 (株 寿子 位 台市 声の口児童館 (地台市 声)ともセンター (本藤 理香 (地台市 八木山児童館 (地台市 本)ともセンター (本藤 理香 (地台市 市)ともセンター (本藤 東)・「本藤	6 0		伊藤 綾	仙台市国見児童館
高橋 忠正 仙台市新田児童館 阿部 瑞希 仙台市東宮城野マイスクール児童館 高平 両士 仙台市西山児童館 山下 修羅 仙台市声の口児童館 山下 修羅 仙台市声の口児童館 一次 一次 一次 一次 一次 一次 一次 一	6 1		大久保 潤	仙台市榴岡児童館
第9分科会 "つながり作りの ススメ"	6 2		伊藤 雅宣	仙台市西山児童館
10	6 3	かっハもへ	髙橋 忠正	仙台市新田児童館
高平 両士	6 4		阿部 瑞希	仙台市東宮城野マイスクール児童館
透藤 美咲 仙台市西山児童館 山下 修羅 仙台市唐野児童館 仙台市唐野児童館 條 寿子 仙台市声の口児童館 石巻市子どもセンター 石巻市子どもセンター 石巻市子ともセンター 名取市増田児童館 石製 市 新智が丘児童館 石製 市 新智が丘児童センター 名取市増田児童センター 名取市増田児童センター 名取市増田児童センター 名取市第智が丘児童センター 岩沼市北児童センター 岩沼市北児童センター 岩沼市北児童をセンター 本野 大野 大野 大野 大野 大野 大野 大野	6 5		高平 両士	仙台市虹の丘児童センター
68	6 6	^^^	遠藤 美咲	仙台市西山児童館
1	6 7		山下 修羅	仙台市鹿野児童館
70	6 8		條 寿子	仙台市芦の口児童館
70 第10分科会 71 "子どもとともにつくる児童館" 佐藤 理香 仙台市西中田児童館 73 伊藤 有紀 仙台市井児童センター 74 久保 允 名取市増田児童センター 75 育藤 寿一郎高野 怜美 渡邊 由貴 朴澤 愛美 名取市下増田児童センター 79 春0 81 大田 ふき子 岩沼市北児童センター 81 大田 ふき子 岩沼市北児童センター 81 大田 ふき子 岩沼市北児童センター 83 井垣 利朗 東京都/八王子市立川口児童館 村田 弘孝 岩手県/福井県児童科学館エンゼルランドふくい 古半 真規子東京都/国立市矢川児童館 第12分科会 あそび プロジェクトズ 東京都/国立市矢川児童館 いわて子どもの森 南井 真規子東京都/品川区大原児童センター 88 日井 東京都/品川区大原児童センター 87 大田 東京都/品川区大原児童をセンター 88 田川 東東京都/品川区大原児童をレンター 87 大田 東京都/品川区大原児童館 いわて子どもの森 福井県/福井県こども家族館 石川県/金沢市立瓢箪児童館 田川県/金沢市立瓢箪児童館 石川県/金沢市立瓢箪児童館 石川県/金沢市立瓢箪児童館 石川県/金沢市立瓢箪児童館 田門・本の書とこどもの国 石川県/金沢市立瓢箪児童館 石川県/金沢市立瓢箪児童館 田門・本の書といまた。	6 9		吉川 恭平	
72 つくる児童館" 伊藤 有紀 仙台市八木山児童館	7 0	第10分科会	近藤 日和	14名中丁ともピンダー
7 3	7 1	"子どもとともに	佐藤 理香	仙台市西中田児童館
7 4 7 5 7 6 第11分科会 "震災から10年" 7 7 次と 金取市那智が丘児童センター 7 8 本限市那智が丘児童センター 7 9 名取市下増田児童センター 8 0 本田 ふき子 岩沼市北児童センター 8 1 大田 ふき子 岩沼市北児童センター 8 2 上木 秀美 愛媛県/えひめこどもの城 8 3 井垣 利朗 東京都/八王子市立川口児童館 村田 弘孝 福井県/福井県児童科学館エンゼルランドふくい 福井県/福井県児童科学館エンゼルランドふくい 8 6 第12分科会 "あそび プロジェクトX" 南井 真規子 東京都/国立市矢川児童館 8 7 カー 真規子 東京都/国立市矢川児童館 出口 貴史 東京都/福井県こども家族館 本川県/金沢市立瓢箪児童館 イ川県/金沢市立瓢箪児童館 石川県/金沢市立瓢箪児童館 石川県/金沢市立瓢箪児童館 石川県/金沢市立瓢箪児童館 本別県/全沢市立瓢箪児童館 石川県/金沢市立瓢箪児童館 本別県/と公沢市立瓢箪児童館 石川県/金沢市立瓢箪児童館 本別県/さめきこどもの国	7 2	つくる児童館"	伊藤 有紀	仙台市八木山児童館
75 76 77 78 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 70 71 78 71 78 79 80 80 81 82 83 84 85 86 87 87 88 89 90 91	7 3		須藤 望美	仙台市桂児童センター
76 第11分科会 渡邊 由貴 渡邊 由貴 変援 由貴 本澤 愛美 横山 奈々 太田 ふき子 岩沼市北児童センター 80 太田 ふき子 岩沼市北児童センター 81 82 83 井垣 利朗 東京都/八王子市立川口児童館 福井県/福井県児童科学館 エンゼルランドふくい 菅 智美 岩手県/岩手県立児童館 いわて子どもの森 向井 真規子 東京都/国立市矢川児童館 カーチ 真規子 東京都/国立市矢川児童館 カーチ 真規子 東京都/日川区大原児童センター 荒木 良徳 福井県/福井県こども家族館 中川 恵梨 広瀬 照代 山下 洋一郎 愛媛県/松山市中央児童センター 尾松 佳織 香川県/さぬきこどもの国	7 4		久保 允	名取市増田児童センター
## 第11分科会	7 5		齊藤 寿一郎	- タ取市邪知が氏旧竜わいね—
7	7 6	第11公封合	髙野 怜美	石状印が百か、江元里でノブー
78 村澤 燮美 名取市下増田児童センター 80 太田 ふき子 岩沼市北児童センター 81 上木 秀美 愛媛県/えひめこどもの城 82 井垣 利朗 東京都/八王子市立川口児童館 83 村田 弘孝 福井県児童科学館 エンゼルランドふくい 84 管智美 岩手県/岩手県立児童館 いわて子どもの森 85 高井 真規子 東京都/国立市矢川児童館 87 プロジェクトX" 88 田口貴史 東京都/品川区大原児童センター 78 本井県/福井県こども家族館 6 中川 恵梨 広瀬 照代 口川 恵梨 広瀬 照代 型媛県/松山市中央児童センター 89 山下 洋一郎 愛媛県/松山市中央児童センター 81 本川県/さぬきこどもの国	7 7		渡邊 由貴	
本田 ふき子 岩沼市北児童センター 上木 秀美 愛媛県/えひめこどもの城 井垣 利朗 東京都/八王子市立川口児童館 村田 弘孝 福井県/福井県児童科学館	7 8	- 長災から10年	朴澤 愛美	名取市下増田児童センター
1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	7 9		横山 奈々	
お2	8 0		太田ふき子	岩沼市北児童センター
83 村田 弘孝 福井県/福井県児童科学館 エンゼルランドふくい 菅 智美 岩手県/岩手県立児童館 いわて子どもの森 向井 真規子 東京都/国立市矢川児童館 いわて子どもの森 の井 真規子 東京都/国立市矢川児童館 出口 貴史 東京都/品川区大原児童センター 荒木 良徳 福井県/福井県こども家族館 中川 恵梨 広瀬 照代 コ川県/金沢市立瓢箪児童館 広瀬 照代 日下 洋一郎 愛媛県/松山市中央児童センター 尾松 佳織 香川県/さぬきこどもの国	8 1		上木 秀美	愛媛県/えひめこどもの城
8 3 村田 弘孝 エンゼルランドふくい 8 4 菅 智美 岩手県/岩手県立児童館 いわて子どもの森 8 5 あそび プロジェクトX" 東京都/国立市矢川児童館 8 7 出口 貴史 東京都/品川区大原児童センター 荒木 良徳 福井県/福井県こども家族館 仲川 恵梨 広瀬 照代 石川県/金沢市立瓢箪児童館 9 0 山下 洋一郎 愛媛県/松山市中央児童センター 9 1 尾松 佳織 香川県/さぬきこどもの国	8 2		井垣 利朗	東京都/八王子市立川口児童館
T ンセルラントふくい 音 智美 岩手県/岩手県立児童館 いわて子どもの森 向井 真規子 東京都/国立市矢川児童館 田口 貴史 東京都/田川区大原児童センター 荒木 良徳 福井県/福井県こども家族館 中川 恵梨 広瀬 照代 田下 洋一郎 愛媛県/松山市中央児童センター 尾松 佳織 香川県/さぬきこどもの国	8.3		村田 弘孝	
85 第12分科会 向井 真規子 東京都/国立市矢川児童館 87 プロジェクトX" 一 東京都/品川区大原児童センター 88 一 原本 福井県/福井県こども家族館 69 中川 恵梨 10 上下 洋一郎 一 愛媛県/松山市中央児童センター 10 国民松 佳織 香川県/さぬきこどもの国				
86 "あそび プロジェクトX" 出口 貴史 東京都/品川区大原児童センター				
87 プロジェクトX" 荒木 良徳 福井県/福井県こども家族館 88 仲川 恵梨 石川県/金沢市立瓢箪児童館 50 山下 洋一郎 愛媛県/松山市中央児童センター 91 尾松 佳織 香川県/さぬきこどもの国	-	"あそび		
88 仲川 恵梨 石川県/金沢市立瓢箪児童館 89 広瀬 照代 90 山下 洋一郎 愛媛県/松山市中央児童センター 91 尾松 佳織 香川県/さぬきこどもの国				11.11.11.11.11.11.11.11.11.11.11.11.11.
89 広瀬 照代 石川県/金沢市立瓢箪児童館 90 山下 洋一郎 愛媛県/松山市中央児童センター 91 尾松 佳織 香川県/さぬきこどもの国	-			福井県/福井県こども家族館
89 広瀬 照代 90 山下 洋一郎 愛媛県/松山市中央児童センター 91 尾松 佳織 香川県/さぬきこどもの国	-			 石川県/金沢市立瓢箪児童館
9 1 尾松 佳織 香川県/さぬきこどもの国	8 9			
	9 0			2 3 3 3 4 4 4 4 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5
92 林 早貴子 香川県/造田児童館				
	9 2		林 早貴子	香川県/造田児童館

【企画委員会 前ページからの続き】

9 3		髙阪 麻子	愛知県/東郷町兵庫児童館
9 4		木戸 玲子	京都府/京都市修徳児童館
9 5	第13分科会	長崎 由紀	岩手県/岩手県立児童館 いわて子どもの森
9 6	"50のはなし"	長谷川 陽子	三重県/四日市市子ども交流プラザ
9 7		園部 信大	香川県/まきば児童センター
98		山岸 拓朗	石川県/金沢市立三和児童館
9 9		尾木 善宣	富谷市日吉台小学校児童クラブ
100	エンディング	宮崎 雅行	仙台市榴岡児童館
101	エンティング	吉川 恭平	石巻市子どもセンター
102		大久保 潤	仙台市榴岡児童館

【オンライン担当】

1	株式会社MCラボ
2	仙台小劇場
3	宮城県社会福祉協議会
4	名鉄観光株式会社

【事務局】

	担当	氏名	所属
1		村井 伸夫	仙台 YMCA ファミリーセンター
2	事務局	渡部 知也	子育て応援団ゆうわ
3	平仂问	我妻 良恵	宮城県児童館・放課後児童クラブ連絡協議会
4		中山 香子	西州宗元里師・川林俊元里グブブ建裕 協議云



第17回 全国児童館・児童クラブみやぎ大会 「つながる~こどもがまんなか~」